

地域プロジェクトマネージャー事例集



くらしの中に

総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

令和7年3月

総務省 地域力創造グループ

地域自立応援課

地域プロジェクトマネージャーについて

制度概要

- ・専門的な知識やこれまでの経験で培った人脈などを活用し、関係者間を橋渡ししながら、プロジェクトをマネジメントするブリッジ人材を、重要プロジェクトの責任者として市町村が任用する制度で、令和3年度より開始している。
- ・地域おこし協力隊と同じく、任用にあたっては、都市地域から過疎地域等の条件不利地域への住民票の異動が必要。ただし、現地在住かつ過去に現地で地域おこし協力隊や地域活性化起業人等として活動した経験がある者が任用される場合や、現地在住かつ過去に他の市町村で地域プロジェクトマネージャーとして活動した経験がある者が任用される場合は、住民票の異動は不要。
- ・総務省は、地域プロジェクトマネージャーの報酬費等を対象に、1市町村あたり2名まで、1名あたり680万円を上限に特別交付税措置を講じている。

人数と活用団体の推移

令和4年度	70名(70市町村)
令和5年度	91名(88市町村)
令和6年度	114名(104市町村)

年齢層（令和6年度）

年代	人数	割合	年代	人数	割合
20代	9名	7.9%	50代	33名	28.9%
30代	26名	22.8%	60代	19名	16.7%
40代	27名	23.7%	非公開	0名	0.0%

特徴

- ・地域おこし協力隊経験者(38名)や地域活性化起業人経験者(2名)から地域プロジェクトマネージャーになる方が多く、都市部からの移住等により関係を持った地域において、自らのスキルや専門性を活かしながら、引き続き活躍をしている例が目立つ。
- ・20～30代の割合が約7割の地域おこし協力隊と比べ、地域プロジェクトマネージャーは40代以上が約7割と年齢層が高い。

活動分野（令和6年度）

観光・情報発信	31名	商品開発・販売	6名
移住・定住促進	16名	スポーツ	5名
地域コミュニティ活動	15名	環境保全・自然保護	4名
教育・文化	15名	不動産利活用	4名
デジタル	8名	漁業・水産業	3名
農業・林業	7名	合計	114名

ノウハウ

- 三笠高校生卒業生である
- 飲食業で務めていた
- 起業経験がある



プロジェクト名	食を通じた健康づくりと地域活性化
年齢	28歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.6～
出身地	北海道旭川市
転出元	北海道三笠市
活動経験	三笠市地域おこし協力隊 (H31.8～R3.7)
前職	地域おこし協力隊 (三笠市)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

食のまちづくりを推進する上で、欠かすことのできない三笠高校卒業生であり、これまで卒業した三笠高校生や現役の三笠高校生を繋ぐことができると考え、地域プロジェクトマネージャーになりました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<札幌三笠会との連携>

札幌三笠会の総会開催時の三笠高校卒業生への開催案内や総会出席等の取りまとめのほか、総会当日の三笠高校卒業生の現況発表などの企画を実施



<東京三笠会との連携>

東京三笠会の会報発行にあたり、三笠高校卒業生への取材依頼などを行い会報発行時の取材協力や執筆協力を行ったほか、総会開催時における三笠高校卒業生への開催案内や総会出席等の取りまとめを行った。



<三笠市と三笠高校生・卒業生の連携体制システムの構築>

三笠市と三笠高校生・卒業生の相互コミュニケーションの方法としてLINE (ライン) を活用したシステムの構築し、取り組みを進めている。

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) kikaku@city.mikasa.hokkaido.jp

(電話番号) 01267-2-3182 (北海道三笠市役所企画調整課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

https://www.instagram.com/2_beans_coffee/



ノウハウ

○長年、公教育・民間教育の中で児童生徒と実践的な教育に携わる

○ICT導入と効果的な活用方法についての知識



プロジェクト名	木古内町教育力向上魅力化プロジェクト
年齢	54歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.7～
出身地	東京都府中市
転出元	神奈川県横浜市
前職	マーケティング (スターマーク株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

教育長のSNS投稿を拝読し、地域プロジェクトマネージャー（兼教育CIO補佐官）の募集があることを知りました。同時に、教育長の学習観や教育に対する考え方に強く共感、そして今まで私が社会に出てからのすべての知見を活かすことができると思い、応募することを決意しました。

⑪教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<教職員向け研修会>

北海道内初の産官学連携による教職員向け生成AI合同研修会を開催。AIリテラシー向上と授業・校務活用の基盤を強化。公立はこだて未来大学とNTT Comと連携した研修で、教職員はAIの正しい理解と活用法を学び、校務の効率化や先端教育の導入に向けた準備が進みました。



<きこない防災教育フェス2024>

「防災教育フェス」は、町民が楽しみながら防災・減災の知識を実践的に学び、防災意識が高まる機会となりました。VR災害体験やドローン操作などを通じ、個人の備えと地域の絆が強化され、参加者の防災意識が向上しました。



<小中連携カリキュラム検討委員会>

木古内町では、9年間の義務教育を通じて子どもたちの学びを豊かにするため、小中連携カリキュラムの調査・研究を行う検討委員会を設置し、まずは地域学とICTの活用推進を9年間見通したカリキュラム作成を検討している。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：m-moriyama@kikonai.ed.jp

電話番号：01392-2-2224



ノウハウ

- 子どもが「わかる、できる、楽しい」授業づくり
- 在外教育施設での授業・交流活動の実践
- 教科（算数）研究活動の成果のフィードバック

プロジェクト名	こども未来共創都市ニセコに向けた「ニセコスタイルの教育」推進P J
年齢	58歳（R6.4.1時点）
活動時期	R6.4～
出身地	愛媛県大洲市
転出元	北海道札幌市
前職	教職員

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

学校だけではなく地域や行政、民間などと連携し、教育活動を充実したいと考えています。これからの時代の主役である子どもたちが、21世紀を生き抜く力を身に付けることができるような地域社会づくりの一翼を担いたいと考え、地域プロジェクトマネージャーに就任しました。

○ 活動内容・取組成果

<ニセコスタイルの教育>
 幼児センター、小学校、中学校、高校が連携し、ニセコならではの教育資源を活用した一貫教育を推進しています。校種を候えた教職員の連携推進のコーディネートを進めています。



<教育DXの推進>
 DXハイスクールに指定されたニセコ高校において、地域・企業と連携してアントレプレナーシップ（起業家精神）を育む取組「放課後スタートアップ『Stars UP』」の企画実施に取り組んでいます。



<地域とともにある学校づくり>
 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活動を活性化させるため、熟議を通し、地域や家庭と連携した地域とともにある学校づくりを進めています。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kyouiku@town.Niseko.lg.jp
 電話番号：0136-44-2101
 （ニセコ町教育委員会総合教育課）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://niseko.ed.jp/> （北海道ニセコ高校HP）



ノウハウ

- 地域ニーズの把握と課題解決への住民との連携
- 目標達成へのアクションプラン作成とエリアマーケティング
- コーチング
- インターネットを活用した情報発信

プロジェクト名	いわない移住定住促進プロジェクト
年齢	48歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.8.1～
出身地	東京都大田区
転出元	北海道岩内町
活動経験	岩内町地域おこし協力隊 (R1.7～R6.6)
前職	製薬MR (日本イーライリリー株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

製薬企業のMRとして、世界最先端の製薬メーカーの医薬品を通じて10年以上にわたり北海道の地域医療を支える活動に携わってきました。地域おこし協力隊としては地域住民と移住者をつなぎ、町の魅力を共有することに力を入れてきました。これからも移住希望者が安心して移住できる環境作りと地域の魅力発信に関わり続けたいと思い応募致しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<移住者コミュニティ>

移住者と地域住民が集まる交流会を毎月開催。移住者同士が結びつき、仲間作りを行う環境を整え、地域に関わり住民と一緒に町を活性化する取組で、この会で知り合ったことがきっかけで共同イベントを開催したグループも生まれている。



<SNSによる町内魅力発信>

InstagramやLINE等を活用し、町の魅力を町外へ発信する共に、移住検討者や移住者が町での生活を知ることができる環境を整える。さらに、地域住民が町の魅力を再発見し、移住者と地域住民が共に積極的に情報発信をする環境を築くことに寄与することも計画している。

<地域おこし協力隊のフォロー>

地域おこし協力隊員が地域の人たちと関わり、地域活動を円滑に進めながら、ミッションを進められる環境を整えるために1on1による活動計画作成サポート等を行っている。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kikaku@town.iwanai.lg.jp

電話番号：0135-62-1011

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/iwaunai/>

<https://岩内町移住生活.com/>



ノウハウ

- 約25年の記者、編集者経験があり「食と旅のライター」として活動。
- ワインエキスパートなどの資格を有し、ワインや食の分野を中心に、雑誌やwebなどの取材、執筆、編集業務に精通。

プロジェクト名	ワインで結ぶ、余市のポテンシャル
年齢	48歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.4～
出身地	埼玉県さいたま市
転出元	東京都杉並区
活動経験	余市町地域おこし協力隊 (R3.4～R5.3)
前職	記者、編集者

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

R3.4より2年間地域おこし協力隊として活動する中で、特にワイン産業においては国内のみならず、世界のワイン業界の中でも生育環境や町内醸造されたワインを注目すると高いポテンシャルを持つエリアであることを認識した。

一方で、こういった盛り上がりを見せるワイン産業と深い関係にある観光業、飲食業、農業、漁業等の町内関連事業者間の連携が不足していないのではないかと思います。これらを有機的に横軸で通すことが体制を構築する人材の必要性を感じたため。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<余市郡漁業協同組合の新商品開発を支援>

余市郡漁業協同組合が開発に取り組む新商品「ワイン漬けイクラ」について、企画段階から関わり、プランディングやプロモーションを支援。東京時代に培った人脈を活用し、新たな価値を創出するブランドを立ち上げ、プロモーション動画やパッケージの作成も。「ワイン」を切り口に町内関連事業者間が連携することによって、より「ワインと食の町」としてのブランド力を強化する取り組みだ。



<シティプロモーション事業>

東京で開催された日本で唯一のワイン・アルコール飲料の専門展「ProWine Tokyo」で、セミナー講師として登壇。業界関係者やメディアなどの聴講者約60人に「余市町を彩るワイン：地方創生の新たな戦略」とのタイトルで、余市町が進めているワインや食に関する施策について講演し、広報PRを務めた。



<町内事業者のイベントを支援>

余市町で開催されたワインと地域食材をフィーチャーするイベント「余市牡蠣とワインまつり」で、町役場と実行委員会のブリッジ人材としての役割を果たすと共に、イベントの広報PR、運営、当日の司会進行などの役割を担った。「ワインの町」としての取り組みを推進するとともに、地域の「食」にもスポットを充て、事業者同士の交流や連携を図った。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス tomohomma1117@gmail.com

電話番号 0135-21-2117 (余市町役場政策推進課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100065513536530>

https://www.instagram.com/yoichicho_love



ノウハウ

- 会社を1社起業、店を7店舗開業経験
- 複数のジャンルの料理店を経験
- SNSの収益化

プロジェクト名	かみすながわ魅力発掘プロジェクト
年齢	31歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.8~
出身地	北海道札幌市
転出元	北海道芽室町
活動経験	上砂川町地域おこし協力隊 (R2.6~R5.7)
前職	営業職 (ソフトバンク株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

自分の起業してきた経験を活かして、協力隊に対し、起業に対する提案やアドバイスなどの支援を行うことにより、上砂川町への若者への定着を促進させたい。また、これまでにできた人との関係を活かして、町や住民及び民間企業等への橋渡し役となって地域活性化を図っていきたい。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<地域コミュニティ形成事業>

まちの駅ふらっとで月に1度「かみすながわ生活マルシェ」を継続的に開催し、町内外の事業者による特産品の販売等の他、地域おこし協力隊による木・革を使ったワークショップ、ドローン体験会を新たに開催する等により来客数の増加を図っている。



<地域おこし協力隊支援事業>

地域おこし協力隊に対し、日々の活動、卒業後に向けた助言等の支援を行うほか、自身のSNSにより上砂川町の地域おこし協力隊制度のPR等について積極的に情報発信を行い、その情報をきっかけとした応募に繋がっている。



<関係人口創出事業>

元々実施していた小学生によるワークショップ「こどもレモネード」に続き、子どもたちからの希望を受け、新たに「石炭たこ焼き」を実施。今後も新たなワークショップの実施や積極的な情報発信等により、町内外からの集客に結び付けることを目指している。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) kattun_takuya@gmail.com

(電話番号) 070-2001-4736

(職場) きまぐれパン工房

ノウハウ

- 事業立ち上げ
- 事業組織化
- IT活用・DX
- スポーツクラブ経営経験
- IT企業経営経験



プロジェクト名	官民共創推進事業
年齢	46歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R7.2～
出身地	静岡県沼津市
転出元	東京都品川区
活動経験	なし
前職	経営 (コネヒト株式会社) 事業開発 (株式会社コドモン)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

R5年度、連携企業との視察で訪れることをきっかけに、町民や町の関係者との人間関係が生まれ、まちと町の人に一目惚れし、自身と同様の人材を増やすべく地域プロジェクトマネージャーに就任させていただきました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

- <感動人口1億人に繋がる連携企業・開業支援事業者のリクルーティング>
- ・移住/開業者の内定獲得 1社
 - ・企業版ふるさと納税連携企業候補 1社



- <感動人口1億人のリード構築と視察誘引・誘致>
- ・首都圏からのべ30名程度の視察
 - ・関係者リード300名程度の構築



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：teiju@town.hokkaido-kamikawa.lg.jp

電話番号：01658-2-4063

ノウハウ

- 関係性構築・チームビルディング等のファシリテーション
- 食文化継承・食育事業等のプロデュース
- 社会／地域課題×アートマネジメント



プロジェクト名	関係人口創出事業
年齢	45歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	北海道札幌市
転出元	京都府京都市
前職	NPO法人場とつながりラボ home's vi 一般社団法人日本スローフード協会

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・美瑛町にルーツがあり（曾祖父母世代が美瑛町の開拓者で、幼少の頃から頻りに訪れていた）「心のふるさとでもある美瑛町を次世代につないでいきたい」と長年思い続けていた。
- ・町のテレワーク事業への参加(R2)をきっかけに、京都のNPOと共にワーケーション事業に取り組む。
- ・美瑛町の関係人口創出にあたって、これまでの人脈やキャリアを活かして貢献ができるのではないかと考え応募に至る。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<美瑛ワーケーションビレッジ>

- ・町外者と町民との信頼関係の構築・課題解決に取り組む人材とネットワーク拡大を目指し、橋渡し役を務める。
- ・遊休施設の利活用、地域資源の掘り起こしのためのワークショップ等を企画
- ・参加企業／事業者数（前年度からの継続・事業展開含む）：のべ30社



<テレワーク事業>

- ・テレワーク／企業研修等の誘致活動（企業・団体・大学への営業等）
- ・テレワーク希望者へのヒアリング
- ・テレワーク施設利用者へのヒアリング
- ・これまでつながりが薄かった関西圏への営業活動「美瑛つながりラボ」実施
※京都・神戸 70名参加



<地域おこし協力隊における中間支援>

- ・地域おこし協力隊メンバーの活動に対する課題抽出のための、個別ヒアリング
- ・これまで協力隊同士の横のつながりがなかったため、関係性構築と情報交換のための定例ミーティングを企画・実施
- ・活動の“見える化”（情報発信等）を検討

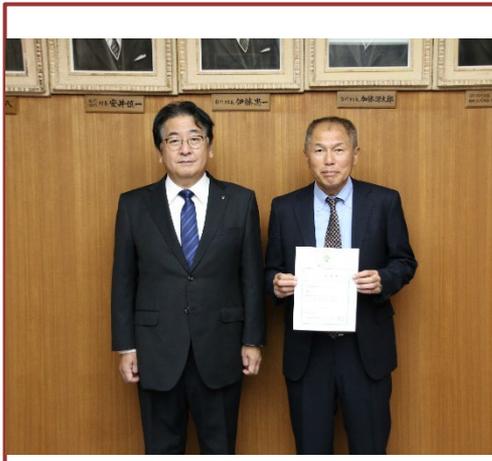


【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）soumu@town.biei.hokkaido.jp
（電話番号）0166-92-1111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/seiko.okubo.5>
<https://smout.jp/plans/8216>



ノウハウ

- 新事業の企画
- プロジェクト推進経験を有する
- 市場調査、営業戦略の策定

プロジェクト名	基幹産業を核とした地域経済の活性化・関係人口創出プロジェクト
年齢	62歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.10～
出身地	千葉県市川市
転出元	千葉県市川市
活動経験	中富良野町地域おこし協力隊 (R4.4～R6.9)
前職	伊藤忠商事

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職で培ったノウハウを生かし、中富良野町において、事業の計画や施策を作り推進するプロジェクトマネージャーの仕事にチャレンジしたため。製品やサービスを仕入れて販売すること、新たな事業を企画して推進すること、これらの仕事で得た経験やスキルを中富良野町が取り組む事業の推進に生かせると思ったため。

○ 活動内容・取組成果

<地域商社事業の推進>
令和5年12月に設立した地域商社のふるさと納税事業において、農業者のサポート役として関係機関及び農業者との連携を図り、町内農作物の流通を促進する。



<テレワーク推進事業の推進>
交流人口や関係人口の拡大を目的としたテレワーク施設活用を行うことにより、夏季以外の季節にも町へ訪れていただくことで通年を通じた町の魅力を感じていただく機会を通じて滞在型観光を促進する。



<サテライトキャンパス誘致による地域活性化事業の推進>
首都圏に拠点を構える大学または専門学校と連携し、メニュー開発を行い、町内飲食店がレシピを採用することで魅力ある地域の食を通年で楽しめる環境を創出し通年型観光を促進する。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：mirai@nakafurano.jp

電話番号：0167-44-2133

ノウハウ

- 寄木細工等の木工雑貨の製造・営業・販売経験
- SNS宣伝やネット販売戦略・運営知識
- 木材や村立高校を核とした地域をつなげるコミュニティ形成



プロジェクト名	芸術・地域資源活用プロジェクト
年齢	23歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.8.5～
出身地	北海道鷹栖町
転出元	北海道札幌市
前職	自営業 (工房そなも)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

おといねっふ美術工芸高等学校を卒業したのちに、起業をして工房を立ち上げた中で、自分の人生を大きく変えてくれた高校3年間を与えてくれた音威子府村に貢献できる仕事だと思い、縁があって応募しました。高校3年間と独立後の4年間で養った幅広い分野での技術と経験を活かし、地域に貢献していきたいと思います。

○ 活動内容・取組成果

< 芸術文化施設運営各種作成・修正 >

- ・木遊館の利用料金や制作キットの見直し
- ・エコミュージアムおさしまセンターの英語版施設紹介 (QRコード等) の作成
- ・地域おこし協力隊事務所の設置
- ・エコミュージアムおさしまセンター及び木遊館においてのイベント開催及びPR



< おと高応援団の活動サポート >

- ・有志により村立高校 (おと高) の活動を支援する団体 (おと高応援団) が設立され、その活動経費はクラファンにて集められた。この有志団体のメンバーとなり、事業やお礼品の企画、イベント開催の主要メンバーとして参画し、団体の活動の幅を広げている。



< 今後の活動 >

- ・芸術文化施設の様々な企画立案や制度等修正、事業PRを積極的に行う。
- ・芸術文化施設と村立高校 (おと高) をつなぎ、おと高OBの移住、卒業生の定住につながる取り組みを行う。
- ・施設の今後を俯瞰的に捉え、アドバイスする。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: tiikishinkou@vill.otoineppu.hokkaido.jp

電話番号: 01656-5-3311(役場代表)



【活動の様子を発信しているSNS→】

@OTOINEPPU_VLG

ノウハウ

- コピー、デザインの方向を決めるクリエイティブ・ディレクション
- 人と人・人と企業・地域と地域・地域と都市部などをつなぐコミュニティ形成



プロジェクト名	ブランディング等地域活性化事業
年齢	56歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4.1～
出身地	北海道斜里町
転出元	神奈川県横浜市
活動経験	クリエイティブディレクター/コピーライター
前職	(株) JTBコミュニケーションデザイン

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

「知床観光ブランディング強化事業」でプロポーザル方式によってクリエイティブ・ディレクターとして選任され、平成28年度から6年間務めた経過があることから、これまでの実績への評価も高く、定例町議会にて承認を受けた為、地域プロジェクトマネージャーとして採用。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<知床ブランディング>

2016年からスタートした知床観光ブランディングを、漁業・農業・環境・テレワーク等に横展開して、地域ブランディングにまとめ上げる。2022年4月からは、役場の中に入ることで地方自治体と民間企業をブリッジする、より広い意味での地域ブランディングを進行中



<ゴールドウィン社との連携>

2021年10月に地域活性化に関する包括連携協定を結んだ株式会社ゴールドウィンと連携。THE NORTH FACEアスリートのサミットや企業合宿を通して、知床と親和性の高い人や企業とのブリッジを通して、関係人口増加を図っている。



<首都圏・札幌人材へのPRイベント>

コミュニティ型ワークスペースWeWorkに所属することで、知床及び知床サステナブルに興味のある人や企業をブリッジするイベントを開催。実際にテレワーク/ワーケーションで訪れる人を増加させている。また、同じ方法論で札幌でも展開中。



【メディア等の取材連絡先】

sh.miryoku@town.shari.hokkaido.jp (政策推進課)

0152-26-7708 (直通)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/junhatsuumi/>

<https://note.com/junhatsuumi/>



ノウハウ

- 公立小学校、私立小学校、海外インター校など幅広い現場経験
- 私立小学校の立ち上げから、入試・広報の責任者として、児童募集・教員募集に従事
- 全国に学校教育関係者の幅広い人脈

プロジェクト名	子どもにやさしいまちづくりPJ
年齢	36歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.10～
出身地	愛知県一宮市
転出元	愛知県瀬戸市
前職	学校法人SOLAN学園 (理事・副校長)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

公立小学校教員、ベトナムのインターナショナルスクール、私立小学校の立ち上げと管理職という経験を積み、様々な立場から教育に関わってきた。その結果多くの人と意見を交流し、自分なりの幸せの形を考えたとき、地域（ローカル）が豊かであることが幸せにつながるという価値観に至った。全国的に見ても、安平町の取り組みは非常に魅力的で、日本全国の地域が抱える過疎や少子化の問題に対して、実行力のある施策が打ち出せそうだと感じ、自分もそこに関わりたいと思い、応募した。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<追分高校MA+CHプロジェクト>
 北海道の地学協働まちづくり推進事業のMA+CHプロジェクトの指定校に採択された追分高校の、総合的な学習のカリキュラムデザインを行う。さらにこれを高校だけでなく、追分の小学校・中学校の総合とも連携させ、追分地区全体の総合的な学習の魅力化を目指す。



<教育・こどもタウンミーティング>
 早来地区、追分地区でそれぞれ保護者や地域の方に、町の教育施策や方針について周知する場である教育・こどもタウンミーティングを実施予定。これからの時代、これからの教育を提示し、安平町の教育の方向性が一致していることを地域の方々に伝える。



<教職員の働き方改革推進>
 総合的な学習の充実、地域への周知に加え、ICT環境の整備と研修を行うことで、業務の精選と生産性の向上を目指し、昨今ブラック化が叫ばれている教職員の働き方改革につなげる。Canva Japanから講師を招き、実践的なICT研修を行う。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：2024_s.yamada_edu@abisc.jp

電話番号：0145-29-7036

(北海道安平町教育委員会学校教育グループ)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

(広報あびら) <https://www.town.abira.lg.jp/kurashi/koho/koho2024>



ノウハウ

- 幅広い行政担当者
とホットラインを持つ
- 地域おこし協力隊や
地域プレイヤーとの
win-win関係
- 事業や活動はすべて
何かの布石（伏線）
にする

プロジェクト名	子どもにやさしいまちづくりPJ
年齢	50歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.4～R6.4
出身地	北海道安平町（旧追分町）
転出元	北海道恵庭市
前職	学校法人リズム学園（幼児教育）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

平成30年北海道胆振東部地震の際に災害ボランティアセンターで活動していく中で町の復興には地域がつながり、地域で子どもを育てるまちづくりが必要だと感じた。そのタイミングで町がCFCIの考えをもとにプロジェクトをつくることを知り、今までの自分の経験や知識が町の復興に寄与できるのであればと思い、応募した。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<教育フォーラムの開催>
安平町の教育の取り組みを道内外に発信するため地域で活動するまちづくり会社と連携してフォーラムを開催。幼児教育、学校教育、社会教育をつなげ、全国から300名以上の参加者が集った。



<早来学園ヤギ飼育>
動物を飼育したいという要望を受け、地域で動物を飼育している住民と地域の子ども関係NPOをつなげPTAと協働でヤギを飼育。地域の子もや大人がヤギを見に学校に足を運ぶきっかけとなる。



<ミニ地域食堂>
創業実践の地域おこし協力隊と高齢者をつなげ、ミニ地域食堂を平日日中の学校で企画（11月実施）。子ども達が福祉や起業を目にする機会となり、まちに関心を向ける一助となる。



【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）gk-kyouiku@town.abira.lg.jp

（電話番号）0145-29-7036

（北海道安平町教育委員会学校教育グループ）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

（広報あびら）<https://www.town.abira.lg.jp/kurashi/koho/koho2023>



ノウハウ

- 前職まで（交通事業者・シンクタンクの企画・計画部門）の経験を踏まえた、企画立案力
- 自治体・企業・地元等各関係者間の橋渡し役となる調整力

プロジェクト名	北海道上士幌町 SDGs・ゼロカーボン推進プロジェクト
年齢	41歳（R6.4.1時点）
活動時期	R4.7～
出身地	兵庫県尼崎市
転出元	埼玉県三郷市
前職	都市・交通計画シンクタンク

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

関西から憧れて移住し、4年弱過ごした十勝。一度関東圏に移ったが、再び十勝の地に戻り仕事がしたいと考えていた。その中でも、最先端の取組を推進している上士幌町について、以前の十勝居住時代から「おもしろい街」であると興味を持っていた。SDGsやゼロカーボンに関する知識はほとんど無かったものの、この街で、この仕事に取り組みたいと思い、応募したことがきっかけである。

⑧ 環境保全・自然保護

○ 活動内容・取組成果

<SDGs普及・促進>

SDGsやゼロカーボンを中心としたまちづくりを推進する本町において、町内外へのSDGs普及・促進を中心に取り組む「リーダー」として業務にあたる。R6.4月に「SDGsポイント制度」、5月に「町民マスター制度」を運用開始するとともに、今後も町民の意識醸成や行動変容につながる取組推進に力を入れる。



<対外的な普及啓発活動>

本町におけるSDGs等に係る取組において、行政視察受入やメディア等の取材、セミナーでの講演・発表等、引き続き精力的に実施。R5.10月には、本町も署名する世界的な枠組み「世界首長誓約」が、本町にて国際ワークショップを開催。開催前・開催時の調整を主となり精力的に行い、国内外の多数自治体が参加され、交流を深めることとなった。



<町民等への普及啓発活動>

町内への小学5年生を対象とした年間30時間のSDGs出前授業をはじめとして、中学・高校や町職員・議員、町内団体など幅広くSDGsの出前授業・講座を実施している。また、町民や町内団体をメンバーとしたワークショップも開催。アイデアをまちづくりや取組に活かしつつ、メンバー達のSDGsに対する意識醸成・行動変容等を進めている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス)

kikawa-yousuke@town.kamishihoro.hokkaido.jp

(電話番号) 01564-7-7255 (職場 直通)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.kamishihoro.jp/sp/sdgs/>





ノウハウ

- 事業計画策定と補助金申請
- プログラミングによる作業自動化とビッグデータ解析
- 調査企画と結果分析、ファシリテーション

プロジェクト名	官民連携による地域共創プロジェクト
年齢	51歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.12～
出身地	北海道河西郡芽室町
転出元	神奈川県藤沢市
前職	事業開発コンサルティング業 (個人事業主)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでの他の自治体におけるスマートシティ事業企画および運営の経験を活かして、大樹町の地域共創によるまちづくりを推進し、脱炭素と宇宙産業や農林水産業の発展を両立することで、生まれ育った十勝の振興に貢献するために志望しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<住民・団体等との意見交換会の企画・運営>

多様な住民とともに、まちの課題解決に向けた意見を出し合い、大樹町の新たな魅力や価値を創り上げていくことを目的とする未来共創会議の企画・運営。



<ゼロカーボン実現に向けた事業推進業務>

大樹町地球温暖化対策実行計画を事業計画に落とし込み、補助金申請を支援する。畜産系バイオメタンをロケット燃料とする計画実現を支えるバイオマス循環ネットワークづくりなど、事業者や住民と協働する重点プロジェクトを実行する事業計画策定のための基礎的調査と数値分析、方針骨子作成を行っている。

<地域共創によるまちづくりの仕組みづくり>

様々な職業や世代の町民ヒアリングを実施し、地域課題を洗い出すとともに、各種制度を活用した専門家人材の誘致により、必要なスキルやノウハウを住民に供与することで、町と住民が協力協働して地域課題を解決するための取組みを計画している。

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) kikaku-kakari@town.taiki.Hokkaido.jp

(電話番号) 01558-6-2113

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 前職の大林組にて、宇宙エレベーター、宇宙居住に関する検討
- S-Booster2018にて未来コンセプト受賞
- 三菱総合研究所主催「フロンティアビジネス研究会」にて、居住WGリーダーを務める

(地域プロジェクトマネージャー
本人の写真を1枚添付してください)

プロジェクト名	大樹発！航空宇宙関連産業集積による地域創生推進計画
年齢	33歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R3.5～R6.4
出身地	東京都豊島区
転出元	東京都豊島区
前職	建設業 (株式会社大林組)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

大樹町で北海道スペースポートを実現させ、宇宙版シリコンバレーをつくることで、地方創生及び日本が宇宙産業で世界に勝つ未来をつくるため志望しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<企業版ふるさと納税獲得のためのPR業務>

北海道スペースポート拡充整備等のプロジェクト資金調達のため、企業訪問やPR等により、企業版ふるさと納税の獲得業務を行っている。令和5年度は76件5億3,555万円の寄附（航空公園事業拡充事業2億7,735万円、航空宇宙関連ビジネス推進事業2億5,820万円）をいただいた。

<ロケット射場等整備に係る業務>

新たなロケット発射場等整備に係る基本設計等の業務に取り組み、小型人工衛星打ち上げ用の「Launch-complex1(LC1)」が、2025年度完成予定。



<北海道スペースポートPR業務>

帯広市で、宇宙ビジネスカンファレンスである北海道宇宙サミットを開催し、モデレーターとして登壇。北海道における宇宙版シリコンバレー創出に向け、機運醸成や北海道スペースポートのPRを行った。



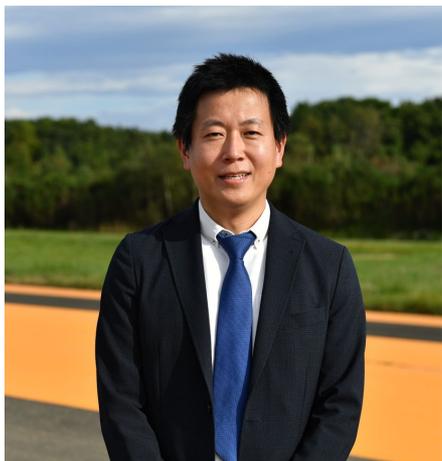
【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) press@spacecotan.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

HP : <https://hokkaidospaceport.com/donate/>

Twitter : 北海道スペースポート@hospojapan



ノウハウ

- 航空事業おける知識全般
- プロジェクトマネジメントスキル

プロジェクト名	大樹発！航空宇宙関連産業集積による地域創生推進計画
年齢	41歳（R6.4.1時点）
活動時期	R6.9～
出身地	福岡県福岡市
転出元	福岡県福岡市
前職	航空会社(3社)→楽天グループ

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでの経験で培った「航空事業の知識」と「プロジェクトマネジメントスキル」をこれから更に発展する宇宙産業に活かしたいと考えようになりました。その際に日本の中でも1歩も2歩も先に進んでいる北海道の大樹町のSPACEPORTで日本の宇宙産業の発展に少しでも貢献したいと強く思い応募しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<海外ロケット事業者打上げサポート>
大樹町でのロケットの打ち上げを計画する海外事業者に対し、打ち上げに向けたプロジェクト管理や、各法対応のサポートを担当。これまで2～3年程進まなかったプロジェクトの進捗に貢献し2025年の打ち上げを目指し最終調整を行っている。



<ロケット事業者獲得に向けた活動>
大樹町からの打ち上げの新規ロケット事業者獲得を目指し、北海道宇宙サミットなどのイベントを通じて、国内外のロケット事業者へ営業活動を実施。海外ロケット事業者より実現に向けた具体的な検討依頼を受け調整中。



<企業版ふるさと納税の営業活動>
新たな射場の建設費用などを調達するため、HOSPOの活動に賛同いただける企業に対し、各種イベントへの出店などを通じて企業版ふるさと納税の営業活動を実施。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) press@spacecotan.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

HP：<https://hokkaidospaceport.com/donate/>

X (旧Twitter)：北海道スペースポート@hospojapan



ノウハウ

- 大手民間企業におけるの管理職経験（＝マネジメント力）、経営理論、マーケティング知識
- Uターン人材として首都圏のニーズと地方の魅力について接続させ、返礼品開発・企画、商品化、販促、効果検証、改善できること
- 飽くなき探求心、開拓魂、行動力、諦めないマインド、そして郷土愛

プロジェクト名	ふるさと納税事業推進プロジェクト
年齢	47歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.7～
出身地	北海道池田町
転出元	東京都江東区
活動経験	池田町地域おこし協力隊（R3.5～R5.6）
前職	外食企業5年、教育関連企業16年

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和3年5月からの2年2ヶ月間、池田町で地域おこし協力隊のふるさと納税推進員として業務に携わった。今般、町の重要プロジェクトにふるさと納税事業が位置付けられ、このプロジェクトの目標達成を地域プロジェクトマネージャーとして目指すことが、これまで以上に町に貢献し恩返しすることになると考え、応募に至った。

④ 商品開発・販売

○ 活動内容・取組成果

<活動内容①>

「産業振興、地域活性化」を重要プロジェクトとしてふるさと納税寄付額10億円を目指している。納税業務は多岐に渡る。外部委託していないため寄附者対応、配送管理、返礼品開発、書類作成封入、請求、広告宣伝、アクセス分析競合チェック、サイト管理など進捗確認し課内のメンバーと協力し対応している



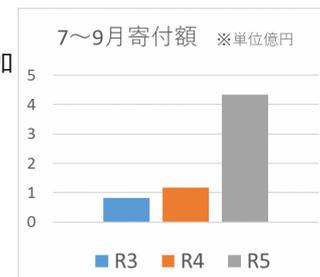
<活動内容②>

自治体、納税関連企業、生産事業者、関係者間の調整を図る「ブリッジ人材」として積極的にコミュニケーションを取って信頼関係を構築している。特にサイト運営会社と密である。関わる関係者は全て同じチームと考え目標達成を目指している。年度では寄付件数、寄付額ともに過去最高の昨対比3倍ペースで推移している※9月末現在



<取組成果> R5年7月～9月

納税事業者意見交換会 過去最高9社参加
 サイト主催勉強会 3回参加し展開中
 主要サイトアクセス数 前年対比167%
 寄付件数 3.5万件（前年比388%）
 寄付額 4.3億円（前年比371%）
 新規参入事業者 3社（商品券系）
 CVR（転換率＝購入率） 前年対比150%



【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス） furusato@town.hokkaido-ikeda.lg.jp

（電話番号） 015-572-3218

（職場・池田町役場 地域振興課）



ノウハウ

- 旅行業界での実務経験（企画、販売、手配、実施、添乗等）
- ツアー商品開発経験
- 事業企画立案、プロモーション、マネジメント経験

プロジェクト名	別海町地域商社構築プロジェクト
年齢	56歳（R6.4.1時点）
活動時期	R6.12～
出身地	奈良県橿原市
転出元	愛知県春日井市
活動経験	別海町地域おこし協力隊（R5.8～R6.11）
前職	旅行業（クラブツーリズム）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

昨年8月に別海町の地域おこし協力隊になった当初は、3年後に個人事業主として小さな旅行会社を起業しようと考えていましたが、別海町地域商社構築プロジェクトの発足を知り、私の過去の知見を活かすことでプロジェクトの推進に貢献できると考え応募しました。1年4か月、協力隊として仕事をする中で、別海町の潜在能力の高さ、町の将来を見据えた考え方などに強く共感しています。

④ 商品開発・販売

○ 活動内容・取組成果

<別海町地域商社構築プロジェクト>

別海町の誇る特産品はもとより、観光資源やICTを活用した商品やサービスの開発や、地域活性化及び人財確保の観点で推進している地域おこし協力隊の任期満了後の受け皿として機能するよう、地域商社を設立するとともに、設立後の運営の安定化を図るためプロジェクトの現場責任者及びマネジメントを行っている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：ueda.masaji@betsukai.jp

電話番号：0153-74-9502

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

Instagram（上記二次元バーコード）



@MASAZY_HOKKAIDO



ノウハウ

- 物産の販路拡大
- 観光キャンペーンの企画立案
- 観光施設の管理運営

プロジェクト名	ひらかわ観光地域づくりプロジェクト
年齢	63歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	青森県青森市
転出元	青森県青森市
前職	公社) 青森県観光国際交流機構

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

少子高齢化や人口減少等により観光を取り巻く環境が大きく変化する中、地方の「まち」を持続可能にするためには、観光を起点とした交流人口の増加を図ることが重要と考えています。

これまで長く観光に関わってきた職歴での知識や経験、人脈を活かし、母の出身で愛着ある地域の振興に貢献したいと考え応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<観光コンテンツの造成、ブラッシュアップ>

令和4、5年度に造成した観光コンテンツについて、関係事業者者に再ヒアリングを行うなどし、課題や改善点の洗い出しやブラッシュアップに取組みます。

今後は、明らかになった課題の解消を図りながら磨き上げを行うほか、新たなコンテンツの造成やそれらの販路拡大に取組み、稼げる観光地域づくりを推進します。

<関係事業者のネットワーク強化支援>

市内の観光施設業者、宿泊業者、飲食業者、造園業者、農業者など、幅広い分野の事業者が参画するネットワークの構築に取組みます。

また、ネットワークの核となる平川市観光協会との定期的な打合せによって組織体制の強化を図り、さらなる稼げる観光地域づくりを推進します。

<猿賀公園一帯の観光地化戦略策定のサポート>

令和6年度に市が取組む、複数の観光資源が集積する猿賀公園エリアの、さらなる観光地化を目指すための戦略策定をサポートします。

観光事業者へのヒアリングから課題など意見を聞き取りし、豊富な知見を基に関係者の連携を図り、観光による消費をエリア全体に波及させます。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kankou@city.hirakawa.lg.jp

電話番号：0172-55-5732



ノウハウ

- 関係人口として20年以上関わり地域の実情に精通
- 地域づくりノウハウ、人を巻き込みやる気にさせる能力に長けている

プロジェクト名	関係人口と住民による地域共創事業
年齢	40歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.7~
出身地	静岡県富士市
転出元	愛知県岡崎市
前職	デジタル化コンサル (日本IBM株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

当町伝統芸能「荒馬」に20年以上関わり続けていた関係人口。長年関わる中で地域の衰退を目の当たりにし、関係人口と住民による任意団体「おおかわだい好き大作戦」を立ち上げ、民間でのまちづくり活動を展開。関係団体等との橋渡しをしつつ「住みたいまち」づくりと「住み続けられるまち」づくりを目指し地域PMに応募。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<地域商社立ち上げ>
地域商社を立ち上げ、現在、青森県の関係人口事業を受託、町の宿泊施設の管理も受託し観光客受け入れ増加を目指し、組織の自走化に向けて奔走中。



<関係人口の交流>
伝統芸能をフックとした既存の関係人口と住民の協働を促進し、町外へPRを実施。関係人口が生き生きしている様子を発信することで新たな関係人口創出にも取り組んでいる。



<地域内小規模イベント実施>
地域内の空き家を活用したマルシェやワークショップを開催し住民と関係人口を巻き込むことで、地域住民の主体性を育むと同時に関係人口の関わりしるを創出。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) y-sufu@town.imabetsu.lg.jp

(電話番号) 070-4304-3133

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/sufu.yuma/>



ノウハウ

- 新規事業の立ち上げ時、既存、新規いずれの関係者に対しても、深く、丁寧なコミュニケーションを図れる。
- 新たな地域で楽しく暮らすため、地域の「当たり前」（自分にとっては違和感）を見つけ、満喫できる。

プロジェクト名	仕事・学びの場創出事業
年齢	50歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.5～
出身地	茨城県水戸市
転出元	宮城県仙台市
前職	みちのく潮風トレイル総括本部長 (特定非営利活動法人みちのくトレイルクラブ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前々職で、住田町を含めた三陸沿岸の市町村と関わっていたが、前職でも三陸沿岸で仕事をしながらも、住田町だけ関わっていないことを心残りに感じていた。
岩手県内で転職することになり、地方創生や三陸に関わる仕事を探している際に、募集記事を見つけ応募した。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<震災伝承施設登録>

東日本大震災から得られた事実や記憶、経験や教訓を広く次世代に継承していくことを目的とした震災伝承施設への登録が決定した。

パンフレットやHPに掲載されたことにより多くの方が当施設を知るきっかけになった。



<展示棟見学会>

当町が仮設住宅を建設した経緯やその後の再活用について紹介するとともに、再現した展示棟内を案内した。

当時の後方支援活動やNPOや企業ボランティアによる活動の様子について広く伝えることができた。



<営業活動>

施設を利用する企業を誘致することを目的に企業訪問やイベントに参加し施設の宣伝を行った。

興味を示した企業に対して今後、具体的な提案をする機会を設けてもらうなど誘致に向けての企業の新規開拓をすることができた。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：seki.icowellsumita@gmail.com

電話番号：0192-47-5075

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.icowell-sumita.com/>





ノウハウ

- 酒類の製造・販売等の実務全般、組織マネジメント
- 地域密着型の企業経営、地域連携、商品開発
- 日本ソムリエ協会 ワインアドバイザー

プロジェクト名	地域活力を創造する産業の展開
年齢	56歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.10.16～
出身地	岩手県盛岡市
転出元	岩手県盛岡市
前職	会社役員 (株式会社ベアレン醸造所)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまで携わってきたベアレン醸造所と野田村の地域連携活動で縁をいただいた方々とのつながり、また昨年歩いたみちのく潮風トレイルで北三陸の自然や風土に触れた経験から、より地域に根差した活動で野田村の振興に関わりたいと思い応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<農林水産物の高付加価値化>

- ・ 農林水産物の高付加価値化に加え、地域産品の販路開拓や商品開発支援、マーケティング、ブランディング、自然や地域資源を活用した地域全体の振興、持続可能なビジネスモデルの構築支援



<企業・事業所等との協業支援>

- ・ 生産者、関係団体、第3セクターと行政との連携を目指し、その橋渡しを行っている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) sangyo_norin@vill.noda.iwate.jp

(電話番号) 0194-78-2926 (野田村産業振興課内)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

作成中

宮城県加美町 MYERS PAUL
(マイヤース・ポール)

ノウハウ

- High English skills
- Adaptable person
- Passion for music



プロジェクト名	多文化共生プロジェクト ～英語と音楽が響くまち～
年齢	33歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.2～
出身地	アメリカ イリノイ州
転出元	アメリカ イリノイ州
前職	外国語指導助手 加美町

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

町の職員の方がとても親切で、積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれたことが印象的でした。また、音楽を通じて知り合った人々は、文化が違って理解しあうことができることを確認している。加美町が求めている、英語教育のさらなる向上・音楽のまちづくりの推進・国際理解教育の充実などをお世話になった加美町に還元したいと思い応募しました。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<イングリッシュキャンプ>
教室外の英語に触れることを目的として、町内の小中学生を対象にイングリッシュキャンプを開催。英語を使った遊びやメッセージカードづくりを行い、楽しい英語体験を提供した。



<音楽活動>
中新田中学校マーチングバンドの外部コーチとして、毎日の部活動で熱心に指導している。大会では本人も指揮者として登壇。昨年度、今年度と県大会で2年連続金賞を受賞し、東北大会出場へと導いている。



<ALTのサポート>
加美町でALTとして7年間勤めた経験を活かし、現在町で任用している5名のALTを、生活面から英語の指導方法まで、あらゆる点においてサポートしている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) hito-shigoto@town.kami.miyagi.jp

(電話番号) 0229-63-5611

(加美町役場 ひと・しごと推進課宛)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- (株)電通時代に培った高い企画力とリーダーシップ、コミュニケーション能力
- (株)電通時代に自治体研修生受入担当部長として培った人材育成力
- 「みちのくの金」への深い知見

プロジェクト名	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進プロジェクト
年齢	69歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R7.3～
出身地	東京都
転出元	神奈川県川崎市
活動経験	涌谷町地域おこし協力隊 (R2.1～R6.12)
前職	営業・地方創生・自治体研修生受入 (電通)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

日本初の産金の歴史を有する涌谷町が、文化庁の日本遺産認定を果たすため、外部申請アドバイザーとして平成29年(株)電通に依頼し、樋下氏が担当。令和元年度に認定を果たした後、前職を満期退職することになったため、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の推進役として涌谷町地域おこし協力隊として着任いただき、コロナ禍の特例延長含む5年間にわたり、けん引。さらなる日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の推進のため地域プロジェクトマネージャーに応募。

○ 活動内容・取組成果

<「天平ろまん館」日本産金聖地化>
国史跡黄金山産金遺跡に立つ文化観光拠点施設「天平ろまん館」で、砂金採りチャンピオンシップを企画するなど、日本における産金の聖地化を図り、観光誘客を推進する。
なお、これまでの取り組みにより、砂金採り体験者が年間1万人を突破した。



<観光施設の町内一体動線づくり>
文化観光拠点施設「天平ろまん館」と日帰り入浴施設「わくや天平の湯」、宿泊施設「研修館」といった点を線でつなぎ、さらには面的な効果をもたらすことができるよう、指定管理者同士の連携を推進する。さらに、町内におけるキープレイヤーとの連携も図る。



<後進の育成>
地域おこし協力隊時代から、涌谷町のみならず、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の構成市町を誰よりも高い熱量で駆け回り、人と人をつなぎ、推進してきた樋下氏。その樋下氏の後進となるような高い熱量を持った人材の発掘・育成を図り、地域全体のボトムアップを図る。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：t-hinoshita@town.wakuya.miyagi.jp

電話番号：090-2565-3996

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

個人Facebook <https://x.gd/Mx7xA> (短縮URL化)





ノウハウ

- 地域での脱炭素活動を通じた地域の活性化
- エネルギーの地産地消の実現
- 公的支援と民間資金の有効な連携

プロジェクト名	カーボンニュートラル推進事業
年齢	57歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.10～
出身地	東京都東久留米市
転出元	宮城県仙台市
前職	環境省東北地方環境事務所

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまで徳島県、福岡県等で生活した中で、日本の地域の活性化に関心を持っていた。そして、地域の活性化のためには、私の専門でもある脱炭素の取組が有効であると考えていたが、その中で地域脱炭素を実現するという本ポジションの募集があり、応募することとした。

⑧ 環境保全・自然保護

○ 活動内容・取組成果

<地域新電力育成支援業務>
鹿角市も出資している地域新電力会社である「(株)かづのパワー」が、エネルギーの地産地消を当地域で広めるために、案件形成、普及促進等の各種支援を行っていく。



<再エネ設備導入等脱炭素推進業務>
地域のカーボンニュートラルを推進するために、市の補助事業など公的支援も活用しながら、再エネ設備等が導入されるよう、地域の関係者に支援を行う。



<カーボンニュートラルの普及促進>
地域のみなさまが、カーボンニュートラルがどのようなもので、どのように取り組むとよいのか等を知っていただくような、広報、ツール開発などを実施していく。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) mitsuhiro-maehara@city.kazuno.lg.jp

(電話番号) 0186-30-0249 (職場)

ノウハウ

- 地域の方と対話を重ねて丁寧に関係性を築き、地域の課題解決に向けた取り組みを推進する
- 視点を広げ、多様な層に届けるための事業企画運営
- 多様な視点の提供



プロジェクト名	戦略的地域運営プロジェクト
年齢	28歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.8.22～
出身地	京都府京田辺市
転出元	秋田県秋田市
活動経験	にかほ市地域おこし協力隊 (R1.11～R4.3)
前職	個人事業主 (企画運営事業)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

当市で地域おこし協力隊を拝命して以来、集落組織設立、農業担い手募集、若者による組織づくり等に携わってきた経験から、人口減少が進む地域において、コミュニティはどのように維持するのか、時代に適応していくべきなのか考える機会を得ました。当プロジェクトで、既存の集落コミュニティと、若者による新たなコミュニティづくりに携わることで、人口減少社会の課題を考えたいと思い応募しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<にかほ市若者円卓会議>
地域の若者の市政への関心や関わる幅を増大させるために、市に関わりのある20~40代で、市の課題テーマについて議論・事業の実施を目指す。
R6.11～始動に向け体制づくりに取り組む。



<集落支援>
集落ごとに、人口減少により抱える課題にどのように立ち向かうか、状況のヒアリングや住民の意思のヒアリングを行い、住民間の対話や取組を促進、コミュニティの維持を目指す。取り組みをR6年度中に始動させるため準備に取り組む。



<仁賀保高校魅力化プロジェクト>
地域振興の一翼を担っている市内唯一の高校の魅力化を図り、地域と連携した特色ある学校として存続させるための議論の推進をはかり、魅力化の取組を実施運営していく。現在取組準備中。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：chiikipm@city.nikaho.lg.jp

電話番号：0184-43-7510

ノウハウ



○普通自動車運転免許
*平成元年4月～令和4年3月まで東京都区役所職員

プロジェクト名	農林業及び観光業の担い手の拡大と育成事業
年齢	58歳 (R6.10.1時点)
活動時期	R5.6～
出身地	秋田県大館市
転出元	東京都板橋区
前職	事務職 (人事部創設担当) (株式会社シンワ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

東京一極集中の一方で地方の人口減少、少子高齢化や過疎化が進行している現実があり、地方活性化の一助になりたい、いずれは地元に戻って地域の役に立ちたいと考えていたところ、地元秋田でこの募集をしている事を知りました。行政では「地域センター」に勤務し、地域の方々と地域活性化に取り組みました。その経験を活かし、地域一体となったプロジェクトに貢献したいと思ったことから応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

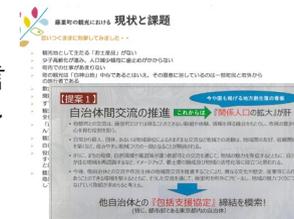
<地域観光機関、団体等との連携・協調>
観光業に関わる事業者や関心のある個人、行政機関による「観光会議」の開催。町の観光の課題の洗い出し→解決・実現策→実現に向けて協議・連携していく会の企画・運営を担う。第1回 (R5.9月) は多様な団体・個人20名が参加。この取組みにより課題の一つであったお土産の造成が完成間近となっている。(R6.10月)



<行政機関等への献策・協力>

プロジェクトの進捗状況、事業の報告・連絡・相談の場として、町商工観光課との定期的な打合せを実施。事業の協力連携、財源確保の協議を行っていく。
定期情報誌の発行 (年4回) を始め、地域の人材の紹介や町の取組、観光協会事業等の情報発信に取り組んでいる。

<地域の現状把握及び分析、戦略提言>
町の現状と課題を把握し、戦略の提言を行う。町に提案書 (2提案) を提出し取組を進めている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：shirakami-kankou@bz03.plala.or.jp
職場電話番号：0185-79-2518 ((一社) 白山山地ふじさと観光協会)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/p/CtJDwuahqXM/>
<https://www.facebook.com/morinoeki55>
<https://twitter.com/morinoeki55>



ノウハウ

- 中央省庁と市役所の両方での行政実務
- 遊休公共施設の利活用の企画や企業誘致
- Jターン移住、起業の実体験

プロジェクト名	中心市街地にぎわい創造活性化事業
年齢	38歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.7~
出身地	岩手県奥州市
転出元	東京都杉並区
活動経験	村山市地域おこし協力隊 (R3.7~R4.6)
前職	国家公務員 (農林水産省)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・農林水産省勤務時に村山市に出向。市の中心地にある旧県立高校跡地の利活用プロジェクトをゼロから企画し、利活用構想を策定。
- ・遊休公共施設を地域活性化の拠点にリノベーションするプロジェクトにやりがいを感じ、構想策定だけでなく施設改修や管理・運営まで一貫して従事するべく、村山市地域おこし協力隊としての業務経験を経て、地域プロジェクトマネージャーの公募に応募。

② 不動産利活用

○ 活動内容・取組成果

<廃校リノベーション施設の運営>
 高校跡地のリノベーション施設 Link MURAYAMAの運営企画業務を担当。市内外の20事業者が入居するほか、公益的な市民活動やマルシェ等の会場として使いやすい利用ルールとすることで、毎週のように催事が行われ、にぎわいを生んでいる。



<商店街空き店舗の利用流動化>
 Link MURAYAMA等の設置により、市内に拠点を求める事業者や起業希望者の声が顕在化したため、空き物件の調査を実施。商工会や地元起業家と連携して、物件所有者とコミュニケーションを取り、賃貸や事業承継に向けた枠組みを検討中。



<視察対応・ノウハウ提供>
 遊休公共施設の再生について、まったくのゼロから企画して利活用構想を策定した経験や、日々の管理運営の実務をもとに、同様の課題を抱える自治体・地方議会等の視察を受け入れ、実践的なノウハウを提供。



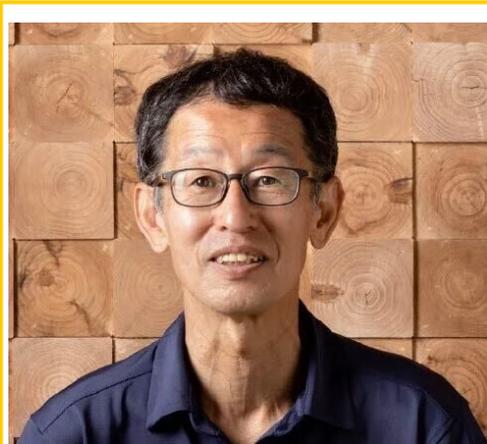
【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) link@city.murayama.lg.jp

(電話番号) 0237-48-8212 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/satoyosuke910>



ノウハウ

- 各競技団体との連携
- スポーツ大会の運営
- 全国の地域スポーツ
コミッションとの連携

プロジェクト名	福島市スポーツコミッション
年齢	64歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.5～
出身地	北海道札幌市
転出元	大阪府豊中市
前職	会社員

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでのキャリアで培ってきた経験を活かし、スポーツ庁が進める地域スポーツコミッションの自立・民主導化を進めるため

⑫ スポーツ

○ 活動内容・取組成果

<スポーツ合宿の誘致・受け入れ>
 精力的な誘致活動を行い、パラスポーツを中心に合宿を実施している。令和6年7月にはデフサッカー男子日本代表、8月にはデフ水泳日本代表が強化合宿を実施した。



<スポーツ大会の開催>
 福島市スポーツコミッションの自主事業として、県外からチームを募集し、1泊2日の日程で0-60のサッカー交流大会を実施した。



<スポーツ体験会の実施>
 パラスポーツへの関心を深め共生社会への理解を図る目的で、ポッチャやブラインドサッカー体験会を実施。福島市民がスポーツを身近で体験できる機会の創出を図った。



【メディア等の取材連絡先】

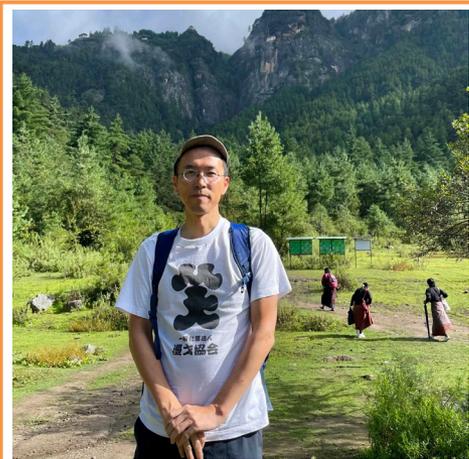
福島市スポーツコミッション

メール info@fc-sc.jp 電話 090-4130-5500

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

福島市スポーツコミッションホームページ





ノウハウ

- 多様（国内、国外）な人たちとの事業マネジメントを経験していること。
- ファシリテーターとしての経験が豊富で「よい話し合い」を作ることができること。
- 行政と民間の両方を理解していること。

プロジェクト名	文化芸術創造都市推進事業
年齢	55歳（R6.4.1時点）
活動時期	R6.4.1～
出身地	愛知県豊橋市
転出元	神奈川県葉山町
活動経験	喜多方市地域おこし協力隊（R2.12～R6.3）
前職	人材開発コンサル、プロジェクトマネジメント

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・文化芸術の分野でのキャリアがそれほど豊富ではなかったのですが、企画やプロジェクト形成・運用、まちづくりの経験など、複合的な経験を活かすことができる環境であったこと。
- ・若い頃から親しんできた芸術の世界で仕事ができるチャンスだと思ったこと。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<文化芸術創造都市事業>

喜多方市の「文化芸術創造都市」の方向を提示しながら、構想を具体的な目にみえる形にする活動をしています。官と民が文化芸術を通して協働できるコーディネート組織の形成も行っています。



<文化芸術を活用したまちの課題解決>

庁内他部署および民間と連携した取り組みを作り出しています。具体的には福祉分野と連携して中山間地域にメイクアップの活動を届けたり、障がい者のための創作環境の整備を進めています。



<創造性を活かした教育支援>

対話型鑑賞を通して、生徒たちが美術に触れ合う機会を提供するとともに、非認知能力向上を目指し、中学校の美術教科の時間にワークショップを開催しています。



【メディア等の連絡先】

メールアドレス：bunka-lpm@city.kitakata.fukushima.jp
電話番号：0241-24-5323（喜多方市 文化課）

【SNS・ブログなど】

note： <https://note.com/ishun/>
Instagram： <https://www.instagram.com/ishida.shu>



KITAKATA_CULTURE_ART

ノウハウ



- 前職場においては営業、支店管理、本社における企画部門、システム部門、広報を経験する。
- 自転車に関しては、現在150名が活動する自転車チームの事務局長となり、チームの運営を行う。
- 東京サイクリング協会所属時は、スポーツバイクの乗り方指導、自転車に乗れない人のための乗り方指導、視覚障害者とのタンDEM自転車を楽しむ会などを経験。

プロジェクト名	旧小手小学校リノベーション
年齢	57歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.8月～
出身地	埼玉県戸田市
転出元	埼玉県戸田市
前職	損害保険 (共栄火災海上保険株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- 趣味の自転車イベントのコミュニティで、挑戦者募集としてリノベーション担当の応募が掲示されていたことがきっかけです。
- 会社も役職定年を迎えており、前職場でシステムのお守りで定年までということも考えましたが、自分の遊びの経験を生かせるのではないかと思います応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

- <伊達市に自転車乗りを集める1>
- 伊達市に自転車乗りを集めるために、WEBアプリ上に走るルート、走ったルートを掲示し、Facebookやブログで公開している。現在は、新記事を掲載すると2日以内に500～3500ビューを超える。



- <伊達市に自転車乗りを集める2>
- 施設の一周年記念事業として「だてなサイクリング」(40キロ 参加費1000円)の企画を月舘総合支所で開催。当日雨で中止となったが、伊達市役所の元自転車部、福島県立医大自転車部からの協力いただいた。



- <伊達市に自転車乗りを集める3>
- 20km～40km程度を長い距離を楽しむ「つきだてサイクリング」「だてなサイクリング」を定期的を実施。
- 自転車乗りとすれ違うときは、声掛けしながら、昼食で行く飲食店に声掛けをお願いし、自転車乗りにも居心地の良い空間としたい。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: motoo-koga@city.fukushima-date.lg.jp
 電話番号: 024-572-2111 (職場) 080-8562-8370 (業務用携帯)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

https://note.com/goemon_dax/
<https://www.kitemina.com/>



ノウハウ

- 教職員としての協働教育の実践と地域連携
- ファシリテーションスキルを活用しての授業実践や対話を活かした話し合いの場づくり
(ホワイトボード・ミーティング®認定講師)
- 社会教育士



プロジェクト名	「多様性と包摂性があたりまえにある世界を子どもと大人でつくる」プロジェクト
年齢	57歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	東京都昭島市
転出元	宮城県石巻市
前職	小学校教員 (宮城県石巻市)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- 「地域と学校」の関わりについて、関心があり、新任教員時代から現在まで継続してその課題意識を大切にしてきたから。
- 磐梯町の、教育の再デザインに取り組むプロジェクトの目的に賛同したから。
- 教員とは異なる立場で、よりよい地域学校協働活動に取り組んでみたいと考えたから。
- 現在も継続して学んでいるファシリテーションスキル (ホワイトボード・ミーティング®等) を生かすことができると考えたから。

○ 活動内容・取組成果

<学校運営協議会・地域学校協働本部>
統括コーディネーターとしてミーティングのファシリテーション、並びに、決まったことの推進に向けたプロセスづくりを行ってきた。
写真：学校運営協議会



<学校と地域の連携協働>
「地域のすてきな大人たち」と子どもたちの出会いの場を創出するために、学校の教育活動と地域の人財をコーディネートしたり、地域活動と学校の連携協力を推進してきた。
写真：磐梯山登山



<大人の学びの場>
ファシリテーションスキル (ホワイトボード・ミーティング®) の練習会を実施し、大人の学びの場を定期的に開催してきた。
写真：ホワイトボード・ミーティング®練習会



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：ryo_motokawa@town.bandai.fukushima.jp

電話番号：0242-74-1216

【磐梯町教育委員会教育再デザインセンターnote】





ノウハウ

- 農産物の六次化商品開発
- 規格外の農産物を廃棄せず活用する方法
- 農産物の販路開拓

プロジェクト名	磐梯町農業活性化プロジェクト
年齢	40歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4.1～
出身地	宮城県仙台市
転出元	宮城県仙台市
活動経験	磐梯町地域おこし協力隊 (R4.12～R5.3)
前職	飲食店、スポーツ教室等経営

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2022年12月仙台市から磐梯町に移住し、地域おこし協力隊として活動を行なって参りました。磐梯町の農業を活性化し持続可能な産業とするために、出口戦略の強化やオリジナル六次化商品の開発、磐梯町の知名度を上げるための活動に力を入れてきました。そのような活動をさらに活発に行うために、地域プロジェクトマネージャーとして活動を行いたいと思い、応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<六次化商品の開発>
等外品になった米や農産物を用いて、これまで磐梯町にはなかったオリジナルの六次化商品を開発した。これにより、農産物の出荷が少なくなる冬期間においても、特色のある商品を展開できるようになった。



<PRイベントへの参加>
これまで、町独自の製品を持って県外のイベントに参加する機会は限りなく少なかった。年間を通じて各地のイベントに参加することで、磐梯町の知名度向上、愛着人口の増加、ふるさと納税の案内をする機会を得ることができた。



<出口戦略の充実>
人口が少なく農地面積も大きくない自治体が出口戦略を考えるときには、大口の取引先と付き合うにはボリュームの問題で困難な部分があった。首都圏の飲食店と関係を構築し、毎週磐梯町の食材を送る定期便のスキームを構築することで、新たな販路の獲得と魅力の発信ができた。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：

keisuke_hanazawa@town.bandai.Fukushima.jp

電話番号：0242-74-1217

ノウハウ

- 民間事業者との事業実績
- 国際交流事業の実績



プロジェクト名	なめがた地域産業活性化プロジェクト
年齢	61歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.8 ~
出身地	モンゴル国
転出元	東京都渋谷区
前職	外交官 (駐日モンゴル大使館 経済・貿易担当 参事官)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

行方市と事業を通して関わる機会があり、市長をはじめ職員の方さんとの交流を重ねる中で、行方市の発展のため一生懸命に取り組んでいる気持ちが伝わりました。このような素晴らしい方々と一緒に私語がしたいという気持ちが動機に繋がりました。

② 不動産利活用

○ 活動内容・取組成果

<企業誘致活動>

- ・市内の工業団地や廃校跡地への企業立地に向けたPR
- ・国内外を問わない企業視察の受入れ



<産業活性活動>

- ・国内外の事業者と地元、事業者とのビジネスモデルの計画協議



<国際交流活動>

- ・行方市とモンゴル国との友好交流協議 (駐日モンゴル大使館へ協議訪問)



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) seisaku03@city.namegata.lg.jp

(電話番号) 0299-72-0811 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- ふるさと納税に係る専門知識
- 地域特産品に関する企画・プロモーション

プロジェクト名	スポーツを核としたまちづくり (関係人口の創出)
年齢	50歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.6.15～
出身地	福岡県福岡市
転出元	福岡県福岡市
前職	株式会社plan代表取締役

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

官民共通の課題である地域の賑わいや人口減少に対して、官民が連携して同じゴールを共有し、それぞれの役割を果たすことでまちづくりを形成していきたいという思いがありました。ふるさと納税制度を活かしたまちづくりをはじめ、地域の課題である空き家対策問題や定住促進などの活動経験を活かし、町の将来や自分たちが出来ることを考えたりする機会を設け、地域に眠る資源をもっと活かした「強い田舎を創りたい」という気持ちが動機に繋がりました。

○ 活動内容・取組成果

- ・境町ふるさと納税推進室、さかいまちづくり公社、境町観光協会、商工会等の関係機関との打ち合わせ及び町内視察研修への対応やふるさと納税、町内商工観光施策、施設の現状把握。



- ・町内スポーツ施設を活用した町の認知度向上とふるさと納税寄付の向上に向けた施策検討及び情報収集。

- ・新たなふるさと納税返礼品の開発提案に向けた情報収集。

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) soumu@town.ibaraki-sakai.lg.jp

(電話番号) 0280-81-1300

境町役場 総務課



ノウハウ

- スタンフォード大学 MBA
- 自治体コンサルティング
- 日本オリンピック委員会をはじめとする国際関係機関とのコネクション

○ 活動内容・取組成果

2024年4月～（茨城県境町）

2024年3月に完成した全天候型の境町アーバンスポーツパーク2ndや既に整備されているアーバンスポーツパークを活用して、BMX日本代表選手団の合宿誘致や今後開催予定の国際大会に向けた各関係者等との調整役等を担う。



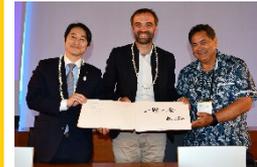
▲全天候型の境町アーバンスポーツパーク2nd



▲パリ2024大会出場に向け合宿を行ったBMXフリースタイル・パーク競技のチームジャパン

2024年5月（フランス・モンペリエ市）

境町でのアーバンスポーツの国際大会開催と、友好都市であるフランス・モンペリエ市との交流を図るため、同市の市長や、同市に本社を構え、世界クラスのアーバンスポーツ施設の製造・建設を行い、アーバンスポーツの総合国際大会である「FISE」も主催するハリケーン社のCEO等との協議の調整役等を担う。



▲橋本町長（左）とモンペリエ市長（中央）



▲ハリケーン社が主催するアーバンスポーツセッションで境町の紹介をする林氏



▲FISEモンペリエ2024に出場した境町在住選手等を激励する橋本町長と林氏

プロジェクト名	スポーツを核としたまちづくり （国際大会の誘致）
年齢	66歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.6.15～
出身地	東京都中野区
転出元	東京都中央区
前職	ABCプランニング株式会社

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

スポーツのイベント企画や教育事業などの業務で、地域の課題や改善の機会を見極めて中、境町のビジョンに共感し、地域プロジェクトマネージャーのポジションに興味を持ちました。自身の豊富な経験とネットワークを活かし、JOCや競技団体などと連携して、プロジェクトの企画・立案から実行まで、成果の追求をリードし、地域の成長に貢献したいと考えています。

2024年7月（フランス・パリ市）・2024年9月（イタリア・ローマ市）

境町でのアーバンスポーツの国際大会開催に向け、アーバンスポーツの総合国際大会である「FISE」を主催するハリケーン社のCEO等関係者及び、ローラースポーツの世界大会「WORLD SKATE GAMES」を主催するワールドスケートの会長等関係者との協議の調整役等を担う。



▲橋本町長（右）とハリケーンCEO（中央）※7月



▲ワールドスケート会長（中央）※9月



▲イタリアで開催されたWORLD SKATE GAMESで優秀な成績を収めた境町在住選手の茨城県知事表敬訪問。橋本町長が知事へ、国際大会開催に向け協力を依頼。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：soumu@town.ibaraki-sakai.lg.jp

電話番号：0280-81-1300（境町役場 総務課）



ノウハウ

- 地域の課題や住民のニーズをくみ取り、独自の図書館サービスを展開する。
- 展開するサービスを軸に、図書館運営を構築する。

プロジェクト名	新図書館プロジェクト
年齢	57歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.4~
出身地	愛知県豊橋市
転出元	愛知県蒲郡市
前職	司書 (豊橋市まちなか図書館)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職で新図書館立ち上げに携わり、やりがいを感じたことから、その経験を活かせる益子町の新図書館建設計画に関心をもち、志望した。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<新図書館>

地域の顕在的、潜在的なニーズを探り、サービス構築へつなげるため、住民グループと対話したり、地域全体の読書環境を知るため、書店主たちとの対話を行っている。

<図書室の運営>

図書館が住民の生活に役立つ、というメッセージを伝えるため、コーナー設置や、特集展示などを通じて、図書室の整備に注力している。

<移動図書館の運行>

図書館建設の認知度を上げるため、保育園、小中学校、道の駅など町内の17ステーションを巡回。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス)

生涯学習課 <syougai@town.mashiko.lg.jp>

(電話番号)

生涯学習課 0285-72-3101

ノウハウ



- 企業経営(16年目)
- 機械設計(設計～加工～組み立て 等)
- 木材加工(木材作業用機械作業主任者 等)

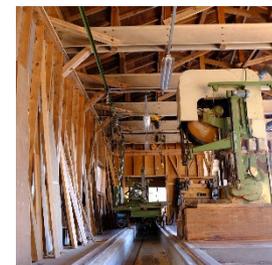
プロジェクト名	未利用材や端材等を活用した体験事業と新商品開発プロジェクト
年齢	38歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.8～
出身地	千葉県船橋市
転出元	千葉県船橋市
活動経験	みどり市地域おこし協力隊 (R2.8～R5.7)
前職	みどり市地域おこし協力隊

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

協力隊時代に活動の拠点としていた「わらべ工房」のポテンシャルに気づき具体的な進路や自身の売り上げを元に今後の可能性を自治体に提案。
翌年度、地域PMに着任。

○ 活動内容・取組成果

<工房の環境整備>
全体の機材の把握～再起動、整理整頓、安全確認、来客体制の強化など本来の工房としての機能を整備。
木工設備と体験コーナーが併設されてる事を強みとした施設を目指す。



<商品開発>
地域に根差した材を使用した商品の開発をはじめ、未利用材や廃材の活用を見直し、引継ぎ可能な商品の開発を行う。
又、地域の企業や協力隊等と連携した販促体制を整備中。
(写真:端材から作った羽子板、みどり市指定重要無形民俗文化財に指定されている削り花を使用した羽根)



<出張ワークショップ>
地域の材を使用し、各地で行われているイベントや施設へ向けた体験型ワークショップ。わらべ工房のPRやみどり市と他地域の関係人口増加を狙う。
(例:竹害とされ処分されていた竹を再活用した竹灯籠作り体験)



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) minsei-a@city.midori.gunma.jp
(電話番号) 0277-97-2581 (わらべ工房)
0277-76-0984 (みどり市東市民生活課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/warabekoubou.midori/>



WARABEKOUBOU.MIDORI



ノウハウ

- バイオマスをはじめとするエンジニアリングの知識(修習技術者)
- マーケティング、価値共創を中心とした企業経営戦略の知識(理工学修士)
- 学びを創るファシリテーターとして知識や経験(社会教育士)

プロジェクト名	中之条町木材活用センターソフト事業プロジェクト
年齢	28歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.6～
出身地	栃木県小山市
転出元	福島県福島市
前職	アシスタント・プログラムオフィサー (一般社団法人Bridge for Fukushima)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・前職で、プロジェクトを創ることを学び、さらに大きなプロジェクトをチャレンジしていきたいと考えていた。中之条町へは地域プロジェクトマネージャー養成講座にて訪れたことがあり、町の取り組みに興味を持ち、関わっていく方々の雰囲気や外部の受け入れに慣れている地域であったので、自身の経験を活かし、中之条町で挑戦したいと思い、公募の結果、現在に至る。

○ 活動内容・取組成果

<森林環境教育の実施について>
地域のNPOと宇都宮大学の学生と協同で小学生から社会人までの間伐体験やオリジナルワークショップなどをプログラム化し、計4回実施した。
また、令和6年度から東京都北区との共同事業が本格的に始まり、中之条町、北区双方から参加者を募り、開催していく。



<木工の促進について>
DIYレンタル工房がスタート。
地域材の利活用のために、町内の使っていなかった木工用機械などを整備し直し、新しい電動工具も揃えるなど、初心者向け、プロ向けの2種類のレンタル工房を開始した。
使用に危険を伴う木工用機械の講習会を地域の建具屋と実施していく。



<林業実践学校の実施について>
刈払機の安全衛生教育の出張講座を3回行い、60名を超える方に参加を頂いた。また、日本伐木チャンピオンシップの元チャンピオンを講師に迎え、チェーンソーの特別教育+6回の技術講習会を開催し、安全意識の醸成と技術向上に向けた活動を行った。



【メディア等の取材連絡先】

中之条町役場農林課林業振興係
(メールアドレス)
ringyou@town.nakanojo.gunma.jp
(電話番号)
0279 - 75 - 8849 【直通】



<Facebook>

ノウハウ



- 写真・動画の撮影及び映像編集
- 商店街づくりに係る取組

プロジェクト名	ハッ場ダム下流地域振興プロジェクト
年齢	46歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	東京都杉並区
転出元	東京都杉並区
活動経験	東吾妻町地域おこし協力隊 (H30.10～R4.3)
前職	自営業 (小川眼鏡店)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊で培った経験や地域の人々と築いた関係性を更に活かして、ハッ場ダム下流地域等の振興及び活性化に貢献できるように考えたから。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<自転車型トロッコ事業>
・自転車型トロッコの運営事業に関し、責任者の立場として取り組んでいる。利用者数に関して、R3年度は8,600人、R4年度は21,000人、R5年度24,000人、R6年度についても前年を上回る見込み。



<ハッ場ダム周辺地域連携>
・町内飲食店・宿泊施設や群馬県、近隣町村と連携し、互いにメリットを生む観光客誘致を目指している。各施設との連携を目指し、観光客増加に向けてた意見交換の場を検討中。



<友好交流都市との交流マネジメント>
・東吾妻町の友好交流都市「杉並区」において、阿佐ヶ谷七夕まつりに当町の農産物PRブースを出店し、さらなる自治体間交流の橋渡しを担っている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) t-shinko@town.higashiagatsuma.gunma.jp

(電話番号) 0279-68-2111

(職場) 東吾妻町役場まちづくり推進課

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://note.com/higashiagatsumap/>



ノウハウ

- 宅地建物取引士
FP1級
- 信託銀行勤務時代に
店舗企画・支店運営
を多数経験
- 高齢者施設、病院等
の経営経験

プロジェクト名	第六次吉見町総合振興計画に基づくみんなで安心して暮らせるまち実現プロジェクト
年齢	66歳（R6.4.1時点）
活動時期	R4.8～
出身地	東京都杉並区
転出元	東京都杉並区
前職	代表取締役（株式会社モデラート）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

人口減少、少子高齢化の進行など地域の現実と向き合いながら、人やまちを元気にしていこうとする町のビジョンに共感し、地域活性化起業人、地域おこし協力隊とも連携しながら公共施設の再生・利活用に取り組む今回のプロジェクトに、これまでの人生で培った知識、経験、人脈などを活かしたお手伝いができるのではないかと考え、今回貴重なご縁をいただくこととなりました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

フレンドシップ・ハイツよしみ
再生に向けた計画策定

地域資源を活かしつつ、時代の変化などにも配慮した施設の再生プランを策定しています。



「地域づくりチーム」マネジメント

地域活性化起業人、地域おこし協力隊、行政が連携し、それぞれの努力が、より大きな成果に結びつくよう取り組んでいます。



【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）y-0245@town.yoshimi.saitama.jp

（電話番号）0493-54-5026（吉見町総合政策課直通）



ノウハウ

- 音楽中心としたメディア業界での活動経験
- 地域おこし協力隊としてフィルムコミッション・メディア対応全般を担当

プロジェクト名	フィルムコミッションによる地域活性化プロジェクト
年齢	64歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R7.1～
出身地	東京都新宿区
転出元	東京都江東区
活動経験	勝浦市地域おこし協力隊 (R2.1～R7.1)
前職	ミュージシャン・作曲家・音楽専門学校講師

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

勝浦市での地域おこし協力隊としての活動やそれまでの職歴による経験を活かし、映画やテレビなどのメディアを通じて勝浦市の魅力をより多くの人々に知ってもらい多くの人に訪れてほしいとの思いから応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<撮影サポート>
映画やドラマ、CMなどの撮影の際に撮影場所の情報を提供するとともに、土地や家屋の所有者との折衝や、地域色あふれるロケ弁の手配など、撮影環境の充実に図っている。



<メディア対応>
テレビやラジオ等の情報番組への情報提供・撮影サポートを行うとともに、自ら出演し、勝浦市の魅力を発信している。また、市内の新しい店舗の情報など、積極的に情報収集を行っている。



<撮影候補地の情報提供>
勝浦市内における撮影候補地の情報収集、データベース化を行い、撮影希望に応じた情報提供を速やかに行うことで、多くに撮影誘致に結び付けている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kls@katsuura-kankou.net

電話番号：080-9583-3323 (公用携帯)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

https://www.instagram.com/hibi_katsuura/



ノウハウ

- 広告、販促、情報発信(CM制作、イベント制作、メディアプラン等)
- 道の駅立ち上げ及び駅長業務、観光業務
- 特産品、ブランド化、広域連携

プロジェクト名	白子町地域活性化推進事業 (移住定住、企業版ふるさと納税等)
年齢	62歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.9~
出身地	広島県三原市
転出元	三重県四日市市
前職	四日市市シティプロモーション部 (観光交流課)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

広島市で広告代理店の仕事を25年経験したのち、広島県内の道の駅や宮城県角田市の道の駅の立ち上げ業務・駅長を経験しました。1次産業、商業、観光振興を横串で考えることや、特産品を作る多くの実践経験、三重県四日市市のシティプロモーション部での行政内部からの観光経験を活かすため、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<産官学連携>

- ・産官学連携事業(企画推進)によるシティブランディングと住民サービスの向上及び地域活性化。
- ・東京大学社会連携部と連携して「体験学習プログラム」を企画実施。地域活性化案をプレゼンしてもらう。
- ・ヨネックス×白子町で「テニスの聖地白子町」のリブランディング(スポ少テニスクラブに講師としてヨネックス様のトップ選手を招聘)



<経験を生かす>

- ・情報発信・観光・イベント制作のノウハウ・行政の横ぐし連携経験等を「白子町」に卸す。
- ・ユニークな企画を仕掛けることでニュースバリューを高めメディア露出まで狙う。シビックプライドの醸成とシティプロモーションを兼ねる。
- ・6次産業化的に、白子産コシヒカリで日本酒を造るマッチング(JA白子青年部白子産コシヒカリ×隣接自治体酒蔵)

<シティプロモーションの推進>。

- ・仕掛けた事業の発信で町のブランドイメージを向上させることで、移住定住の促進を図る。(PFI手法による町営住宅の推進を図る、企業ヒアリング~取り組み中)
- <産官学連携推進> (官学との「橋渡し」・ゼロイチ事業)
- ・産官学連携で行政と官学を結び付けることで、予算なしでの事業遂行。それをプレスリリースして情報発信までするのがモットー。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：keirock10@aol.com

職場電話番号：0475-33-2180

ノウハウ



- 社会構想大学院大学地域プロジェクトマネージャー1期生
- SDGsを中小企業に導入し持続可能な会社へ
- 国内旅行業務取扱管理者
- 観光士
- 宅地建物取引士
- REBT心理士

プロジェクト名	観光振興プロジェクト(地域DMOの設立)
年齢	61歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.7月～
出身地	東京都練馬区
転出元	東京都練馬区
活動経験	
前職	営業開発 (株式会社アクシス)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

(社会構想大学院大学にて地域PM養成課程を修了後、白子町の振興審議委員に囑託され、後期基本計画の策定にかかわっていた。その後、白子町にて地域PMの募集があったため応募)

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<DMO設立・観光庁へ登録申請>
白子町観光振興プランの基づき、その実施団体(一般社団法人プロモーション白子)をR6.10月設立。
観光庁にR7.1月に候補DMO登録申請。
R7年度からDMOを中心に活動開始予定



<観光振興・ビーチの活性化>
サーフィン大会の誘致
R6.サーフィン&SUP体験会(剃金海岸)
アジアボディボード大会(中里海岸)
R7国際デフサーフィン大会決定(古所海岸)
アジアボディボード大会決定(中里海岸)



<観光振興>

- ・白子町への教育旅行の誘致活動
- ・新スポーツ(パドル・ビッケルボール)導入企画
- ・農業体験ツアーの造成
- ・白子町産品開発



【メディア等の取材連絡先】

(syoukou@town.shirako.lg.jp)

(電話番号)

(職場 0475(33)2117 ・携帯090-7014-1038)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100057788216229>





ノウハウ

- 経営戦略の策定実行
- 新規事業の立ち上げ
- 三現主義
(現地・現物・現実)
- DX・ICTの推進

プロジェクト名	まちなかウォークブル推進事業
年齢	36歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.10～
出身地	愛知県豊橋市
転出元	愛知県豊橋市
前職	総合商社 (豊田通商株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

グローバルな環境で働く中で、日本の相対的な地盤沈下を感じるが多かった。一部の大企業や都市部がけん引するのではなく、日本の大部分を占める地方自治体が主体性を持って行動することが、次世代に豊かな暮らしをつなぐ上で必要不可欠であると考え、加茂市の公募求人に応募した。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<中心市街地の再生・活性化>
官民連携まちなか再生推進事業によるエリアプラットフォームの構築や未来ビジョンの策定に向け、商工会議所や商店街、青年会議所や地元大学をはじめとする多様な関係者との協議や意見交換を行い、連携を進めている。



<持続可能なまちづくりの推進>
民間事業者の視点から、市が取り組む各種施策の進捗状況の見える化や全庁横断的な連携・調整に取り組み、中長期的な財源の確保を含めた持続可能な経営戦略に基づいて、地域が抱える課題の解決や施策の推進に取り組んでいる。



<メディアを活用した情報発信>
テレビ局との包括連携協定の締結を主導するなど、シティプロモーションの推進のため自ら積極的に各種メディアに出演することで、加茂市の知名度向上や魅力の発信、シビックプライドの向上に取り組んでいる。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) kikaku@city.kamo.niigata.jp
(電話番号) 0256-52-0080 (内線354)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

・ https://twitter.com/koho_kamo



ノウハウ

- 企業再生
- 地域活性化
- マネージメント
- 第三セクターの経営再建

プロジェクト名	町平坦を拠点とした着地型観光商品の開発及び販売
年齢	69歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.6.1～
出身地	東京都西東京市
転出元	富山県立山町
活動経験	立山町地域おこし協力隊 (H24.4.1～H27.3.31)
前職	株式会社たてやま 代表取締役社長

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

立山町は山岳観光地で有名であるが、その強みを平野部の観光振興に生かせない現状を改善するため。また、機能不全に陥っている観光協会の組織改革と第三セクターの経営指導も合わせて行うことができるのは自分だけだと考えたため。

○ 活動内容・取組成果

<立山町観光協会改革1>
5年度の事業計画・予算計画の立案、総会資料作成、人事・就業規則・賃金体系の改修などを行った。インフラの整備では称名滝電動カート導入の実証実験、土曜日営業など運営改革を行った。またHPを観光客目線でもリニューアルし、観光協会の主業務である観光情報の発信に注力した。特にリアルタイムの観光情報発信、事業者の営業情報発信ができるように改善している。

<立山町観光協会改革2>

自主財源確保を目指し、デジタルマーケティングの実証実験を実施（令和4年10月～5年3月）。結果、平野部誘客にはデジタルマーケティングが必須であることを事業者間で共有できた。今後協会員に提供できる【PMS】や、HPの【観光ラットフォーム化】などのシステム構築を目指しデジタル化を推進していく。



<第三セクターの経営指導>

ウイズコロナでの施設経営・営業活動を指導。アウトドア施設・温浴施設を中心に販売促進指導を行い、経営の健全化を推進した。

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) masa3nob@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

立山町平野部観光情報（ウェブアプリ）：令和5年3月31日に閉鎖

<https://tateyamamachi-kankoukyoukai.com/top>

ノウハウ

- 学校（教育）コンサルティングの経験
- 個別最適な学び・探究的な学び・PBLの理論と実践
- カリキュラム・マネジメントと外部連携



プロジェクト名	社会のWell-beingを実現する学校づくり
年齢	31歳（R6.4.1時点）
活動時期	R4.4～
出身地	福岡県福岡市
転出元	埼玉県戸田市
前職	小学校教諭

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

企業の立場から高校の学校改革のコンサルティング営業に携わる中で、義務教育段階において児童生徒のウェルビーイング実現に向けた教育改革の必要性を感じた。埼玉県戸田市において最先端の教育改革を学び、他自治体に波及させたいと考え、加賀市の公募に応募した。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<学校伴走>

学校のニーズに応じて、市の学校教育ビジョンを実装する学校改革に伴走している。具体的には自由進度学習、STEAMの観点を含めたPBL等の授業づくり、授業支援、授業の振り返り等の伴走を有識者と連携しながら行っている。



<学校教育ビジョン推進>

学校教育ビジョン推進に向けて、指導主事との連携を行いながら教員研修の変革を行っている。また、企業やNPO等の外部団体と連携をしながら、県外からの大規模視察受け入れと対話の場の設計を行っている。



<義務教育学校設置検討>

人口減少が続く地域で義務教育学校設置のための活動を行った。保護者、地域などに10回の説明会を開き、児童生徒・保護者・地域住民への校名募集アンケートを経て、2025年4月に開校する。



【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）y.kobayashi@city.kaga.lg.jp

（電話番号）0761-72-7970（加賀市教育委員会 教育庶務課）



@education.kagacity
Instagram



加賀市教育委員会
facebook



ノウハウ

- 地域住民等との良好な関係構築スキル
- 前職経験を活かした政策デザインスキル
- その他、ライターとしてのスキル等

プロジェクト名	福井市地域コミュニティDX推進事業
年齢	36歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R3.12～
出身地	山形県米沢市
転出元	福井県福井市
活動経験	福井市地域おこし協力隊 (H27.10～H30.9)
前職	まちづくり会社 (株式会社akeru)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・地域コミュニティにおけるデジタル化の普及促進 (スマートフォンの出前講座の実施や、デジタル技術を活用した地域課題の解決等)

※R4年度は、モデル地区として殿下地区にて活動を実施

⑩ デジタル

○ 活動内容・取組成果

- <スマホ教室の開催>
- ・福井市内全域にて、NTTドコモ、福井市シルバー人材センター、地元高校生等、様々な関係者と連携したスマホ教室を開催。
 - ・延べ588人が教室を受講



- <デジタルサポーター養成講座の開催>
- ・デジタルデバイド解消のため、地域内の様々なシーンでスマホ等の使い方等の相談に乗ることのできるサポーター養成講座を開催。



- <新たなデジタルデバイス導入の検討>
- ・地域内の防災体制強化に向けて、モデル地区で新たな防災用デジタルデバイス導入のための実証実験を企画検討。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) c-shinkou@city.fukui.lg.jp

(電話番号) 0776-20-5230 (職場)



ノウハウ

- 首都圏旅行会社等の人的ネットワークを保有している。
- 新規事業の開発およびマネタイズのノウハウを保有している。
- WEBマーケティングの実務経験がある。

プロジェクト名	観光地域づくり法人を中心とした村内観光産業活性化プロジェクト
年齢	61歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.11～
出身地	三重県いなべ市
転出元	神奈川県横浜市
活動経験	地域活性化起業人 (R4.4～R5.3)
前職	代表社員 (サードプレイス合同会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域活性化起業人として令和4年度丹波山村で活動した中で、丹波山村の課題である観光業での人手不足に対して、村全体での稼ぐ力の向上に向けた戦略策定、観光DXの推進による省人化を推進するために地域プロジェクトマネージャーに応募した。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<観光地域づくり法人登録の伴走支援>
一般社団法人たばやま観光推進機構が観光地域づくり法人へ登録されることを目指し、地域プロジェクトマネージャーとして伴走支援し、令和6年9月に候補DMOとして登録された。DMO登録に向けた活動を推進中。



<観光振興のためのプロジェクト推進>
令和5年に企画したデジタル技術を活用した観光産業の省人化や生産性向上のためのプロジェクトが、令和6年度から実行フェーズに入り、デジタル技術を活用した生産性向上や関係人口拡大に抜けたプロジェクトを推進している。



<特定地域づくり事業協同組合の運営>
人手不足という深刻な村の課題に対して、特定地域づくり事業協同組合を設立し、行政と民間事業者のブリッジ的役割を担っている。また、令和6年から稼働を開始したたばやま複業協同組合の事務局を運営している。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) souei@vill.tabayama.Yamanashi.jp
(電話番号) 0428-88-0211

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
(活動報告書)

<https://www.vill.tabayama.yamanashi.jp/gyousei/index.html>



ノウハウ

- ITインフラ全般の基礎知識(応用情報技術者の国家資格取得)
- プロモーション(Web広告の運用経験あり)
- プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネージャーの国家資格取得)

プロジェクト名	世界に冠たる山岳リゾートの実現
年齢	31歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.10.1～
出身地	熊本県熊本市
転出元	神奈川県横浜市
前職	ITエンジニア、企画経営 (東急株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

4年前、北アルプスの表銀座ルート(燕岳→槍ヶ岳→上高地)の縦走をきっかけに登山に夢中になり、週1ペースで山行を継続しました。いつか山に関する仕事に就きたいと考えていたところ、同職の募集を見つけ、前職でのノウハウも活かせると考え応募に至りました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<信飛トレイル開通準備>
松本-高山を起終点とした全長約113kmの歩く道=信飛トレイル。環境省、高山市、松本市、地域事業者が協働し開通準備を進める。中心メンバーとして、ルート設定、地域との調整、マップ作成、ガイド育成、モニターツアー開催を行う。



<トレイルイベントの開催>
「MATSUMOTO TRAIL DAY」という信州のトレイルを盛り上げるイベントを初開催。企画の立ち上げ、PR、当日の運営等すべての実務をほぼ一人で担う。トークセッションは250名、イベント全体では1500名の方に来場いただいた。



<乗鞍ゼロカーボンラボの実施>
日本初のゼロカーボンパーク乗鞍高原において、ゼロカーボンを学び実験と実践を共有するコミュニティ型ラボを市の事業として立ち上げる。地域内外約50名の方が参加し、6プロジェクトが立ち上がる。事務局兼プロジェクトリーダーを担当。

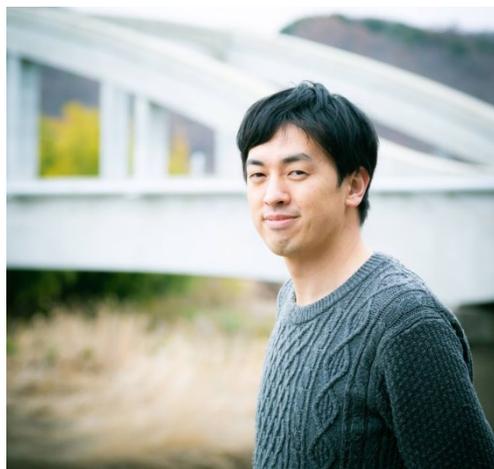


【メディア等の取材連絡先】

メール：alpsresort@city.matsumoto.lg.jp

TEL：0263-94-2307

松本市 総合戦略局 アルプスリゾート整備本部



ノウハウ

- ファシリテーター
- コーディネーター
- 映像制作

プロジェクト名	コミュニティつながりプロジェクト
年齢	40歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	埼玉県川口市
転出元	埼玉県川口市
活動経験	佐久穂町地域おこし協力隊 (H30.5～R3.4)
前職	会社員 (株式会社デジタルSKIPステーション)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

移住の一番の原動力は、コミュニティの未来について真剣に向き合いたいという思いでした。協力隊として町のコミュニティを学ばば学ぶほど豊かで奥が深い一方で、今は転換期にあると感じていました。町はコミュニティ創生を重点施策として謳っており、共感する部分が多いと感じました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<集落の話の聴き手事業>
まちの重点政策の一つである集落コミュニティ支援事業。集落支援員を集落の話の聴き手として町が委嘱し (R5は8名)、マネジメントを行っている。ライフスタイルの変化やコロナ禍により伝承されにくいアイデンティティを次世代に渡す。



<若手つながるプロジェクト>
隣接する小海町と共同で行っている人材育成事業。学びの場に加えて、年次ごとにアレンジしたチーム学習導入により、職員の力量形成だけでなく町内外の良質な関係性の構築を目指している。



<佐久穂町地方創生推進会議>
町の地方創生戦略は「コミュニティ」を重視した「佐久穂町コミュニティ創生戦略」として2期目を迎えているが、当会議の会長として議論をリードし、かつ全体のコーディネート/ファシリテートも担うなど、縦横に取り組んでいる。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) seisaku@town.sakuho.nagano.jp
(連絡先)0267-86-2525 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
なし

ノウハウ

- プロジェクトマネジメント
- ITシステム設計/開発
- 業務効率化
- 人材育成/組織開発
- キャリア設計開発
- キャリアコンサルティング
- 転職支援
- 国家資格キャリアコンサルティング技能士2級
- 国家資格キャリアコンサルタント
- 産業カウンセラー



プロジェクト名	辰野町DX推進プロジェクト 辰野町明るい職場づくりプロジェクト
年齢	58歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.7~
出身地	東京都足立区
転出元	東京都新宿区
活動経験	辰野町地域活性化起業人 (R2.7~R5.6)
前職	人材サービス (株式会社パソナ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

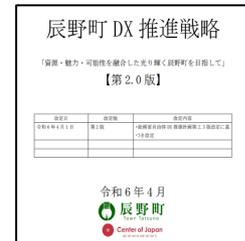
令和2年7月より辰野町地域活性化起業人(旧地域おこし企業人)として3年間、辰野町の課題解決に取り組んできましたが、特にDXに関する知見と経験を町より求められ、今回、辰野町地域プロジェクトマネージャーとなりました。

⑩ デジタル

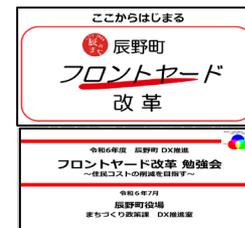
○ 活動内容・取組成果

<辰野町DX推進プロジェクト>

①辰野町フロントヤード改革推進
「辰野町DX戦略」「アクションプラン」第2版策定と辰野町フロントヤード改革を推進。住民にとっての行政手続きコスト(手間、時間等)の削減のため、総合窓口改革、各種手続き業務改革プロジェクトの運営管理を実施。



②DX人材育成、デジタルデバイド対策
辰野町役場全職員へのDX推進機運醸成のためフロントヤード改革勉強会の実施、各課のDX推進リーダーに対してのDXプロジェクト推進力の育成と地域住民に対するデジタルデバイド解消のためのスマホ講座等の企画・設計・講師を担当。



<辰野町明るい職場づくりプロジェクト>
辰野町役場、辰野町商工会、町内企業に対する人材育成支援として、育成方針の策定から階層別研修・各種人材育成に関する課題に合わせた研修の設計、企画と講師、効果測定を支援。また組織開発にかかわる各種課題解決を支援。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) johok@town.tatsuno.lg.jp

(電話番号) 0266-41-1111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

https://www.town.tatsuno.lg.jp/gyosei/choseijoho/shisaku_keikaku/dx/2793.html



ノウハウ

- 前職にて、複数企業とのプロジェクトにおける企画から実施までのプロジェクトマネージャーの経験
- 売木村でのコワーキングスペースの運営とイベント開催等による関係人口創出の実績
- 一級建築士

プロジェクト名	人のつながりで 持続可能な地域をつくる事業
年齢	39歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	奈良県斑鳩町
転出元	奈良県斑鳩町
活動経験	売木村地域おこし協力隊 (R3.4～R6.3)
前職	デロイトトーマツPRS株式会社

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

東京から4年間通い、村の事業に関わるうち、都市部の方が地域とつながれる場の必要性を双方の立場から感じた。都会とは違う豊かさが残る地域の持続に、建築士として貢献したいと思い、地域おこし協力隊となった。村の中心部に交流拠点としてテレワーク施設「うるぎHalo!-岡田屋-」を開業。売木村とつながりをもてた人々が地域にどんどん関わっていく様子から、一過性で終わらせないためにも、仕組みづくりまで関わっていきたく考えた。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<住民と関係人口が地域を支える仕組みづくり>

人口500人ほどの小さな売木村では、村外の人々を地域を支える一員として迎え、ともに活動する未来を目指して、その仕組みづくりを進めています。地域との多様な関わり方を提案し、その実現に必要な体制を整備していきます。



<関係人口の創出とつながりの場作り>

事業の拠点となる「うるぎHalo!-岡田屋-」を運営し、テレワーク施設としてだけでなく、村を知りたい人の相談窓口も担っています。大小さまざまなイベントの開催により、村内外の人々が集う場となっています。その他、SNSで村の魅力や情報を発信し、名古屋でのPRイベントも実施しています。



<地域活性化に繋がる協働取り組み>

うるぎHalo!-岡田屋-を通じ、地域とつながりを深めた関係人口が、自らイベントを開催したり、新たな交流の場を運営したりすることが起きています。また、企業や大学との関係づくりを進め、村への視察も実施。村や村内企業との協業や連携の可能性を探っています。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sangyopj@urugi.jp

電話番号：0260-28-2311

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

うるぎHalo!-岡田屋-インスタグラム

<https://www.instagram.com/urugi.halo/>

ノウハウ



- ソフトウェア開発
- IT機器の操作・管理
- プロジェクト管理

○ 活動内容・取組成果

<窓口キャッシュレス導入>
本庁舎窓口レジのキャッシュレス化。導入に係る庁内外の調整、環境整備を実施中。



11月スタート予定。

<住民向けポータル導入>
村公式LINEの機能強化。住民向け機能の検討、調整およびローコード環境を利用して開発中。



11月スタート予定。

<DX推進リーダー育成>
DX推進リーダー候補となる職員に対して研修受講等のカリキュラムを設定。RPA等のツールに触れることで業務効率改善の意識づけを実施。また任期終了後の自走化も想定。



プロジェクト名	朝日村DX推進プロジェクト
年齢	53歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.6~
出身地	長野県山ノ内町
転出元	長野県安曇野市
前職	ソフトウェア開発 (富士通株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職を2022年3月に退職 (早期退職制度に応募)。じっくり取り組める仕事を探していたところ、偶然本職の求人に出会う。前職の経験が地域社会の貢献に役立てることができるのでは、と考えた。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：dxsuisin@vill.asahi.nagano.jp

電話番号：0263-99-4107

長野県野沢温泉村 佐藤 俊介

③ 観光・情報発信



ノウハウ

- 行政コンサルティング
- スポーツ庁入庁（官民人事交流制度）
- ビジネスコーチング資格取得

○ 活動内容・取組成果

- <野沢温泉ライドシェア実証実験>
- ・JR東日本が主催するWaaS共創コンソーシアムにおいて、ライドシェアの実証実験を検討
 - ・地域外からは、JR東日本の他、NearMe、AMANE、日本総研と連携
 - ・地域内では、のざわ温泉交通に運行管理者として連携のほか、野沢温泉地域公共会議を実施し、関係各所から承認を得た
 - ・次年度以降への事業化を目指し、本実証では期間、時間、範囲を絞っての実験を実施

Nozawaonsen RIDESHARE
野沢温泉ライドシェア
タクシーの代わりに、移動をサポート。

8:00-18:00
2024.11.1 - 2025.1.31

移動課題の解決へ、実証実験を行います
タクシー・他社の運行管理を併せたライドシェアドライバーの
候補者募集の場。運営で困難なポイントも共有し
お互いの交通課題のみ、連携は希望します

実証実験中
野沢温泉街
Demonstration experiment underway!
Local ride-share drivers will help you get around
Nozawaonsen town center. Payments can only be made
using Prepaid IC cards (Suica, PASMO, ICOCA).

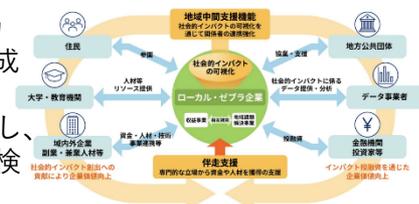
アプリで予約予約 065-8836-3114 065-8836-3114

WACC 野沢温泉ライドシェア 実証実験

プロジェクト名	野沢温泉村における観光産業の振興プロジェクト
年齢	41歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.10～
出身地	山梨県甲府市
転出元	東京都中野区
前職	(株)日本総合研究所

<ローカル・ゼブラ企業検討事業>

- ・中小企業庁事業として、社会的インパクトを生み出しながら、収益を確保する「ローカル・ゼブラ企業」の創出・育成事業を実施
- ・DMOを地域中間支援企業とし、村内その他5団体と連携して検討調査事業を実施中



出所：中小企業庁HP

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

3年ほど前から、野沢温泉村に定期的に滞在するようになり、村の持つ地域資本高いポテンシャルを感じています。学生時代から地域まちづくりの分野で活動を行っており、日本全国の地方公共団体に何い多くの地域を観て、またプロジェクトに携わってきましたが、それらのどの地方公共団体よりも、この村の持つポテンシャルの高さは際立って感じます。特に、自然資本、文化資本、人的資本に対する独自性が高く、ただのスキーリゾート、ただの温泉街ではない、多様な魅力をもつ人材により一つの独自性を持った地域として地域資本が存在していると感じます。現在日本では、少子高齢化を中心として財政難等の局面を向え、地方創生が強く求められていますが、国内のどの地域よりも野沢温泉村での可能性を感じたため。

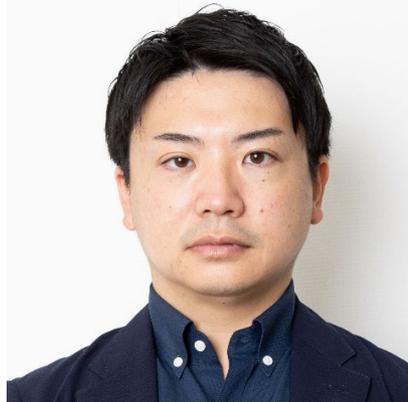
【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス)

shoko@vill.nozawaonsen.nagano.jp

(電話番号)

0269-85-3114 (職場)



ノウハウ

- プロジェクトマネジメント
- 新規事業創出
- 官民連携支援
- チームマネジメント・人材育成

プロジェクト名 夢かなえるまち プロジェクト

年齢 38歳 (R6.4.1時点)

活動時期 R6.8～

出身地 兵庫県姫路市

転出元 岐阜県美濃市

活動経験 美濃市地域おこし協力隊 (R3.8～R6.7)

前職 会社員
コンサルタント業
(デロイトトーマツコンサルティング(株))

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊の活動を活かし、「チャレンジ循環型地域社会：世代・立場を越えて挑戦し続けるまちづくり」を遂行するため。

○ 活動内容・取組成果

- ・まちづくりを推進する法人の設立・運営検討の推進
- ・関係人口事業(等)の拡大・推進
- ・既存イベント・事業の収益化推進
- ・地域おこし協力隊の採用・定着支援
- ・市役所内で政策立案(見直し含)
- ・人材育成を推進する仕組の構築

【メディア等の取材連絡先】

美濃市総合政策課

メールアドレス：sougouseisaku_220@city.mino.lg.jp

電話番号：0575-33-1122 (内線340)



Sweetなまちづくり
およそ6人の生成AI亀谷と本物亀谷
で1週間対応を近い将来へ



ノウハウ

広告会社で培った
Creative know-howとして

- ①最新Digital 知見
Digital Creative
- ②ポスターチラシや動画知見
Impact Creative
- ③セミナーワークショップ知見
Talk show Creative

プロジェクト名	様々な人や地域との交流による まちづくりプロジェクト
年齢	58歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.5～
出身地	東京都港区
転出元	滋賀県甲賀市
活動経験	甲賀市地域プロジェクトマネージャー (R4.4月～R6.3月)
前職	広告会社 (株式会社博報堂)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

広告会社での課題解決能力の活用から始まり、2つの自治体での経験を経て3つ目の自治体となる。そんな民間から3つの自治体への赴任という稀有な経歴を活かし、日本の生き残りに不可欠な東京一極集中の地方分散と地方創生の活性化に取り組む所存です。民間と行政の両視点を持つ強みを生かし地域の持続可能な発展に貢献できればと思います。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

- <①生成AI 啓蒙活動in Hida City>
職員市民へ生成AIの基本をインストール
- ・7月各務原市生成AI講習参加し飛騨市へ
 - ・8月職員向け生成AIセミナースタート
 - ・9月市民向け生成AIセミナースタート
 - ・10月民間生成AI研究所と情報共有開始
 - ・11月生成AI EXPO 東海 飛騨市事例発表



- <②チラシポスター動画クリエイティブ>
創るだけでなく創り方も職員市民へ伝授



横が動画縦がポスター



- <③庁内外人材育成/セミナー開催>
デジタルやワークショップなど毎月1回開催
- ・Canva使い方ワークショップ5/16
 - ・旭丘高校夏季ワークショップ8/5
 - ・インバウンドヒアリング共有会8/7
 - ・人事インターン観光チーム8/26～30
 - ・第1回市民向け生成AIセミナー9/12
 - ・え?!お笑いが介護の話? 10/12



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：shanghaiame@gmail.com

電話番号：0577-72-8904(職場固定電話)



ノウハウ

○ジェンダーや性の多様性について

プロジェクト名	多様性に関する意識啓発プロジェクト
年齢	27歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.3～
出身地	愛知県半田市
転出元	三重県津市
前職	会社員 (株式会社コメリ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

大学で社会福祉を専攻し、相談援助を主とした社会的マイノリティに対する支援について学んだ。プライベートでは、性の多様性に関する講座等に定期的に参加するなど卒業後も知見を深めている。近年LGBTQに関する機運が高まってきた社会状況の変化を受け、培った知識や専門性を活かしたいと思い応募した。

○ 活動内容・取組成果

<市民向けリーフレットの作成>
市民に対する性の多様性に関する理解促進のため、性の多様性についての市民向けリーフレット「知ってみよう 性の多様性」の作成および発行記念展示を実施した。



<ラジオ番組による啓発活動>
コミュニティFMの行政情報番組にて性の多様性やジェンダー平等に関する番組を開始。自身が出演し、パーソナリティとのやり取りを通じて、性の多様性の知識などを発信している。



<職員自主グループの設立・運営>
所属・担当を越えて、職員の性の多様性やジェンダー平等への意識を高めていくため、有志の職員グループを設立。月1回学習会を開き、日常生活の中や業務内での身近な話題などをテーマに、意見も交わしながら見識を深めている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) shiminkyodo@city.shimada.lg.jp

(電話番号) 0547-36-7121

島田市HP「多様な性のあり方への理解について」

【<https://www.city.shimada.shizuoka.jp/gyosei-docs/137669122.html>】



ノウハウ

- 大小20以上の社会貢献事業を関係機関等と協力し事業化した経験
- 全国1万人以上の若者世代とのネットワークと社会貢献事業における指導経験

プロジェクト名	移住促進と空き家活用プロジェクト
年齢	42歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.12～
出身地	神奈川県川崎市
転出元	町内
活動経験	西伊豆町地域おこし協力隊 (R2.9～R5.8)
前職	団体役員 (特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

西伊豆町地域おこし協力隊として、移住者の起業支援や地域おこし協力隊の活動支援、地域活化石業支援などに従事し、3年の任期満了後、地域プロジェクトマネージャーに就任。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

< 移住者の相談機会の拡充 >

4月から毎月東京での出張移住相談の機会を作り、西伊豆現地でも旅行者の集まるイベントに移住相談ブースを設置、オンライン移住相談の機会も今後増やす予定。

- ・成果：出張移住相談-7回実施
新規移住相談件数-53件 (10月1日時点)



< お仕事体験などのイベント創出 >

相談でもよく聞かれる住居と仕事について、町内事業者と協力出来る体制を構築し、イベントを創出。上半期で、3本の企画2本の実施。

- ・成果：林業お仕事体験/6月実施-3組参加
福祉お仕事体験/7月実施-2組参加



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) takai@nishi-iju.com

(電話番号)

【職場0558-52-1966、その他080-3385-1383】

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

https://www.instagram.com/iju_nishiizu/



IJU_NISHIZU



ノウハウ

- スポーツバイクやアウトドアスポーツでまちおこし
- 市外・県外へ新城市の価値を発信
- 地域と市外企業とのコーディネート

プロジェクト名	サイクルツーリズムを中核としたスポーツツーリズムの推進
年齢	48歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	愛知県西尾市
転出元	愛知県名古屋市
活動経験	新城市地域おこし協力隊 (R1.5～R4.3)
前職	アパレル (株式会社CLT)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊として約3年間活動し、スポーツバイクの活用をきっかけに地域との関係性、信頼性を築き上げてきました。地域おこし協力隊としての活動は、まさにスタートラインに立った状態であり、新城市に価値を感じてくださる企業や団体と協力してアウトドアスポーツをきっかけに、より良いまちにしていきたいと考えたからです。

⑫ スポーツ

○ 活動内容・取組成果

<プロロードレースチームとの交流>
 昨年に引き続き、自転車ロードレースの認知、普及促進のため、愛三工業レーシングチーム (UCI登録名:AISAN Racing Team) を招き、ファン交流会を愛知県民の森で開催しました。



<至学館大学 人間力総合演習>
 至学館大学の「人間力総合演習」の授業を活用しアウトドアスポーツを通して新城市における地域課題を解決していく。課題解決をしながら新城市のファンを増やす活動を行う。



<自転車イベントの開催>
 地域を巻き込んだ自転車イベントを開催。3年かけて造成したマウンテンバイクフィールドを活用し、自転車イベントだけでなく、マルシェなどを併催し、関係人口を増やす活動を積極的に行う。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) tomoya.8sk@gmail.com
 (電話番号) 0536-23-7613 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://hatch76.hateblo.jp/>





ノウハウ

- 地域おこし協力隊 (R2.10～R6.3)
- 奥松阪（飲食店）のオープンと運営
- デザインや撮影のスキル
- 大手食品製造メーカーでの財務業務の経験

プロジェクト名	田舎暮らし交流移住促進事業
年齢	44歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.6～
出身地	長崎県諫早市
転出元	愛知県名古屋市東区
活動経験	松阪市地域おこし協力隊 (R2.10～R6.3)
前職	デザイン会社・飲食店経営 (株高杉アトリエ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和2年に飯高地区へ移住して以来、様々な形で当地域の方々にお世話になっています。地域おこし協力隊での経験や飲食店オープンのスキル等を活用して、これからも地域の活性化のお手伝いができるように、また、移住してきた方々や移住を考えている方々と地域との橋渡し役ができるようにと考え応募しました。また、私自身が経験した宿泊施設のオープンや経営のノウハウを、現在計画されている道の駅の小規模宿泊施設の開設準備や運営などにお伝えできればと思います応募しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<まつさか移住交流センター>

- ・移住希望者に向けたホームページ構築の指導
- ・空き家バンク（所有者及び利用者）のDX化による窓口業務の効率化
- ・既移住者への対応（相談など）



<道の駅飯高駅の活性化>

③観光・情報発信

- ・飯高駅（レストラン）の運営に関する指導・助言
- ・道の駅「飯高駅」の収益増に向けた経営的指導・助言



<飯高駅 小規模宿泊施設について>

③観光情報発信

- ・飯高駅に設置予定の小規模宿泊施設の建設に関する助言・指導
- ・道の駅飯高駅の小規模宿泊施設の運営方針に関する助言・指導
- ・道の駅飯高駅の小規模宿泊施設の旅館業の取得についての助言・指導



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：takasugiryo@mie.tours

電話番号：0598-68-9782（松阪市香肌地域づくり協同組合）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

kahada.net



ノウハウ

- 大学院・学会における忍者忍術学研究等の忍者に関する専門知識
- 大手IT企業での法務・新規事業開発・プロダクト開発リーダー経験
- 地域おこし協力隊としての忍者観光およびWEBを通じた情報発信実績

プロジェクト名	甲賀流忍者調査団～ニンジャファインダーズ～ 調査・研究・情報発信事業
年齢	38歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	千葉県松戸市
転出元	東京都北区
活動経験	甲賀市地域おこし協力隊 (R3.4～R6.3)
前職	新規事業・プロダクト開発 (ヤフー株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

甲賀市で3年間地域おこし協力隊として活動し、未だ課題が多くあると感じており、特に甲賀忍者にまつわる歴史遺産の調査・保存と、当該観光資産の観光コンテンツとしての活用はどちらも欠けてはいけないものであると感じました。甲賀忍者を軸とした調査・活用を軸としながら、その魅力を広く発信していくことで、甲賀市を忍者の聖地としたいと思い、応募を決めました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<史料保存・調査研究・講演>
歴史学者であり本PJの団長である磯田道史先生と連携しながら、甲賀忍者にはじめとした郷土史料の保存・整理・研究・発信を行っています。6月の調査団の講演会では500人を超える観客を動員しました。地元にも調査結果を適宜報告しています。



<日本遺産事業の推進>
日本遺産「忍びの里伊賀・甲賀」に関して、事業を連携している伊賀市と甲賀市の橋渡しをしながら、高付加価値なツアー造成・AIを活用したSNS発信、都市部でのPRイベント、コラムの執筆などを推進しています。



<体験コンテンツ造成とPR活動>
観光協会と連携しながら、観光庁の補助金も得て、忍術書の内容を復元した忍者体験コンテンツの開発を行っています。忍術書から内容を実験する様子はYouTubeでも公開し、本格的な忍者の地であることをPRすることに努めています。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：koka30109000@city.koka.lg.jp

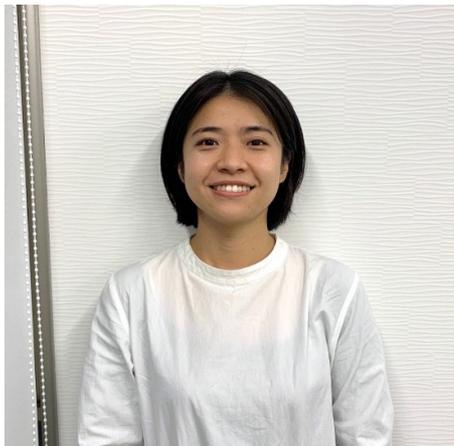
職場電話番号：0748-69-2252 (甲賀市役所 歴史文化財課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

・YouTube： <https://www.youtube.com/@NinTube>

ノウハウ

- 甲賀市を代表する地場産業である信楽焼の産地「信楽町」での人脈
- デザインやアートへの知識と理解
- 展示用のパネルなど展示物の制作技術



プロジェクト名	2025年大阪・関西万博に向けたブランド発信支援事業
年齢	30歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	鹿児島県湧水町
転出元	京都府京都市
活動経験	甲賀市地域おこし協力隊 (H28.4～H31.3)
前職	イベントコーディネーター (甲賀市役所)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

滋賀県甲賀市信楽町で地域おこし協力隊、前職である地域イベントコーディネーターを経て、将来的に信楽町の産業を活性化させていくことを考えたときに、より広い視野で産業の取り組みを見るべきだと考え、甲賀市（商工労政課）が募集していた地域ブランドコーディネーターに応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<コウカEXPO2024>

主に地場製品の振興・周知・体験を企画担当し、ワークショップの調整、展示品の借用や展示に必要なスケジュールリングを行いました。また、関連事業の主催団体との調整も行いました。



<地域ブランド展開支援事業>

委託予定業者・プロデューサー等との事業進行の調整や事業展開に向けた地域団体・参画事業者の対応や準備等を行っています。



<六古窯日本遺産魅力増進事業>

文化庁補助を受け、六産地の主要プレイヤーの連携と地域内外の事業者との連携構築に向けた、産地への事業周知や事業展開に向けた窯元等への説明を行いました。

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) koka10351000@city.koka.lg.jp

(電話番号) 0748-69-2187

(甲賀市役所 商工労政課)



ノウハウ

- 営業で培ったコミュニケーション力
- 経営者として培ったマネジメント力
- 夫・父親として培った包容力

プロジェクト名	結婚支援事業強化プロジェクト
年齢	56歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.10～
出身地	京都府京都市
転出元	京都府京都市
前職	経営者・役員 (不動産会社・学習塾)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

若い頃から地方移住に憧れており、会社経営者として20年の経過を機に、後進に道を譲りつつ夢の実現に歩みだしました。

その中で地元の京都とも程よい距離感で、幼い頃からの旅行先としても大好きだった城崎温泉のある地、豊岡市を選択しました。

任せていただける事になった当該事業も、私が歩んできた経験や実績が大いに活かせると確信し、大きな一歩を踏み出した所存です。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<窓口拡充>

2024年6月より、隔週日曜に商業施設内で婚活登録相談窓口を開始。現場スタッフとして勤務し体制を強化、利用者のニーズにこたえている。日曜窓口は好評を得ており、特に女性の新規登録者数が昨年度に比べ増加している。



<デジタル化>

現在ほぼ完全にアナログで行っている紹介マッチング事業のデジタル化 (2026年度実現目標) に向けて、他自治体や民間事業者の情報収集等、活動を開始している。

<広域連携>

現状では紹介できる人の総数が限られるため、近隣市町と連携することで分母を拡大、出会い機会を増やすことをミッションのひとつとしている。マネージャーとして、今後視察や協議を行っていく。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：heartreef@city.toyooka.lg.jp

電話番号：0796-21-9100

(豊岡市地域づくり課 移住定住・若者係 ハートリーフ事務局)



ノウハウ

- 地方自治の現場で、公務員、NPO法人代表、町議会議員、民間事業者を渡り歩いたガバナンス力
- 持続可能な社会の原則を踏まえた思考法

プロジェクト名	Local Coop大和高原プロジェクト
年齢	51歳 (R7.3.1時点)
活動時期	R7.3～
出身地	愛知県名古屋市
転出元	愛知県名古屋市
前職	一般社団法人 (代表理事)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地方自治の現場で四半世紀に渡り試行錯誤してきた持続可能な社会づくりのノウハウを他地域に展開したいと考えていたところ、Local Coop大和高原プロジェクトを知り、社会が縮んでいく日本において共助の拡大・強化にチャレンジしようというコンセプトに強く共感してエントリーしました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果 (予定)

<プロジェクトに関する団体,組織,地域おこし協力隊,地域内関係者とのリレーション構築>
プロジェクト関係者との定期ミーティングや、地域のステークホルダーとの協議を通じてリレーション構築を行う。



<プロジェクトの推進>

Local Coop大和高原プロジェクトの1つである、地域内の生物多様性に関する地域内外の人を巻き込んだワークショップに参加する。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：tsukigase-chiikishinko@city.nara.lg.jp
電話番号：0743-92-0131

ノウハウ

- 対話を用いた場のデザイン
- 自然環境や文化の保存×移住・定住、関係人口の創出
- 環境問題、土壌に関する知識



プロジェクト名	橋本市高野口信太地区における地域活性化に向けた魅力アップ事業
年齢	27歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.7～
出身地	熊本県熊本市
転出元	熊本県熊本市
前職	地方活性、人材教育 (株)パソナグループ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

日本の自然環境・食の問題に危機感を抱き、人が住むことで自然環境を破壊するのではなく、再生できる暮らし(パーマカルチャー・オフグリッド)を創る為に橋本市への移住を決意。2拠点生活をしながら移住準備を進める中で、地域の過疎化や地域の方の文化を受け継ぎたいという想いを知り、自分の暮らしのみではなく地域全体の自然環境・人の暮らしを守り、良くしたいという想いでプロジェクトマネージャーに応募。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<話し合いの場づくり、地域への周知>
月1回、地域住民(20代～50代)で行っている活性化の取り組みについての話し合いのファシリテーション。3か月に1回行う区長等への報告と提案の会議のファシリテーションを行い、地域内の声を活性化に反映させる。また、地域に取り組みを浸透させるため、月1回の新聞を発行。



<地域イベントの開催>
活性化の土壌の無い地域に対しての意識付けの為、地域内の魅力を掘り起こす為の地域イベントを令和4年度末より10回実施。移住希望者向けの小規模イベントを3回実施し参加者の内1組が移住を決めた。令和6年度には地域内企業と共同で秋まつりを開催した。



<地域冊子の作製>
移住・定住、関係人口の創出を目的とした、地域の冊子を作製。デザイナーとして、地域在住の移住者を起用。3名の地域外写真家と地元住民が撮影した写真を織り交ぜた、アート性の強い冊子で、地域で生業を起こしたいファミリー層以下の移住者にアプローチする。写真家自体も地域の関係人口になっている。



【メディア等の取材連絡先】

mao.kataoka@city.hashimoto.lg.jp

0736-33-6113 (職場・橋本市農林振興課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/shinoda.satoyama/>



SHINODA.SATOYAMA



ノウハウ

○研究者・企業経営者・行政系シンクタンク研究員の経験を基盤とし、自然をいかしたまちづくりに際して産学官連携を行う

○全国の博物館等の展示物を制作しており、古生物骨格復元技術をいかした観光・教育インフラ整備ができる

○学校の総合学習をすすめ、知の拠点整備を行う

プロジェクト名	ワカヤマソウリュウをいかしたまちづくり
年齢	非公開
活動時期	R6.6～
出身地	山梨県南アルプス市
転出元	徳島県勝浦町
活動経験	勝浦町地域プロジェクトマネージャー (R3.6～R6.2)
前職	勝浦町参与

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

化石を活用した地域づくりを日本各地で行ってきている。R5年度に公表された有田川町産のモササウルス、ワカヤマソウリュウについて、産出地である町においても化石を教育・観光資源として有効に活用していくために、土台作りが必要となったため。

○ 活動内容・取組成果

〈化石を活用した地域振興事業の基盤づくり〉
新たに公表された化石資源を活用し、町の総合計画に沿った教育や観光振興を行う。
産出した化石の復元模型の制作、化石発掘体験等来訪者を増やす仕組みづくり、全国各地へのPRなどコンテンツづくり全般。
イベントなどでのPR。



〈化石を活用した教育インフラの整備〉
幼保小中高大の要請に伴う学習環境の構築、教材づくり。
町内外における生涯学習関連の企画・実施、視察受け入れ対応など。



〈化石事業の周辺に生じる課題・機会の分析、解決〉
研究機関や県などの研究実施団体と町側との事業調整。
研究で培ったデータ分析技術を用いた地域課題の解決。
取材対応やTV出演など。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) actowogino@gmail.com
(電話番号) 0737-22-4513 (有田川町教育委員会)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
https://twitter.com/Shinkai_OGINO



ノウハウ

- 旅行業関連
【営業、オペレーション、企画、添乗、人事等】
- 観光協会、DMO関連
- 農泊関連
- スポーツ、アウトドア関連【スキー資格】

プロジェクト名	持続可能な観光地域づくりの実施体制の確立
年齢	57歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.4～
出身地	東京都
転出元	千葉県市川市
前職	旅行業

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでの旅行会社や観光協会等の勤務経験、ノウハウを活かし、微力ながら観光振興のお手伝いをさせていただいていました。昨年4月の正式赴任前までは、東京、鹿児島等での前職との掛け持ちでしたが、ようやく専任できる準備が整い、満を持して、応募し、採用され、着任させていただきました。

○ 活動内容・取組成果

<活動内容>

主に由良町観光協会の事務局としての業務にあたる。「地域の総力戦」をテーマに、それぞれの地域に眠る文化、歴史、しきたり、食の特性等、土地ごとの生活文化を、着地型観光として提供し、由良町内での滞在時間を拡大させながら、地域の人々と来訪者が交流を深め、ご当地を大好きになってもらうことで、「交流人口」以上の「関係人口」へと進化させて行くことを目指す。「体験」「滞在」「交流」という3つのキーワードで、どのように地域の良さを来訪者に伝えるか、地域全体（由良町）で、そのメニューが構築できればと思います。

<取組成果>

由良町観光協会・令和6年度の事業内容・収支予算（案）の策定にあたり、事業内容、予算関係等を精査、調整し、役員会、総会に向けて、資料を作成、準備し、無事開催した。
役員会：令和6年7月2日
通常総会：令和6年7月11日



<取組成果>

- ① ツーリズムEXPOジャパン2024出展
業界日の2日間、旅行会社等との商談【営業活動及び情報交換等】を実施。一般日の2日間は、PR活動・情報発信に従事。
- ② ツアー企画・造成
旅行会社へ日帰りや1泊2日のツアー造成に向けた営業活動を実施。ツアー設定に至る。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：yura.ikehara@gmail.com

電話番号：0738-65-3852

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 移住希望者への空き家紹介・案内の経験
- 空き家リフォームの数種の例を地域おこし協力隊時代に経験
- 「急いではいけない」ことの重要性を在任経験から認識

プロジェクト名	河原地域の空き家総合対策といなば西郷工芸の郷事業の活性化
年齢	53歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.6～
出身地	京都府京都市
転出元	東京都杉並区
活動経験	鳥取市河原町西郷地区地域おこし協力隊 (R2.2～R5.1)
前職	会計年度任用職員 職種 (会社名等) 公民館職員

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊の終了後、同地域でのプロジェクトマネージャー募集があったので、隊員時代の知見を活かせるのではないかと応募した。

② 不動産利活用

○ 活動内容・取組成果

- <河原地域の空き家の利活用>
- 6月 各地区まちづくり協議会会長、各地区公民館長に今後の活動方針について説明・意見交換
 - 7月 各地区自治会長に空き家についてのアンケート依頼
 - 7～9月 アンケート集計、鳥取市全戸悉皆調査による河原町全域の空き家候補を各戸現地調査
 - 10月 アンケート集計に基づき、利用可能空き家、迷惑空き家についての情報収集を各地区自治会長に依頼



- <西郷工芸の郷事業の推進及び活性化>
- 6月 徳永進氏講演会開催
 - 7月 連続講座 鳥取大学リカレント講座 てつがくカフェin西郷 開始
 - 8月 明治大学 視察見学受け入れ
 - 9月 道の駅清流茶屋かわはらとのコラボ企画「冷やガーデンin okudan」開催
 - 10月 第9回西郷工芸祭り開催

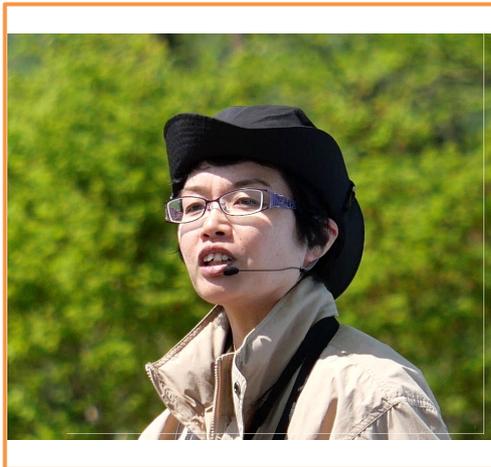


【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：rsrt815@gmail.com

電話番号：0858-71-1722

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 作業療法士
- イベント企画司会
- フィールドワーク

プロジェクト名	江府町SDGs未来都市計画プロジェクト
年齢	46歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4~
出身地	岡山県岡山市
転出元	岡山県岡山市
前職	作業療法士 (新庄村社会福祉協議会)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

海外では青年海外協力隊にてマレーシアボルネオ島で活動・国際災害支援にてインドネシアで活動していた経験があり、国内では持続可能な地域活性化事業などに関わっていた。福祉分野だけでなく、幅広く地域の人と関わり、自分の出来ることで世界を平和にしていきたいと強く願っていた。そんな中、江府町でSDGs推進地域プロジェクトマネージャーの募集を知り応募した。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<奥大山自然塾>

水の町江府町がSDGsの主軸として
いる重要プロジェクト。本校である富
良野自然塾副塾長との調整、自らもイ
ンストラクターとして活動。



<SDGsワークショップ・授業・講演>

こどもリサイクルマーケットはじめ、
小学校でのSDGs授業、国際交流体
験、高齢者学園への講演を行い、SD
Gsの普及を実施。



<福祉事業>

鳥取県介護予防支援員と共に、江
府町保健師、役場勤務動画担当、そ
して地域住民で、動画を作成し、フ
レイル予防や生きがいをもって生活
できる方法を伝えている。動画は各
市町村に拡散している。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) hiromikoushima@town-kofu.jp

(電話番号) 080-9795-6171(公用携帯)

0859-75-2211 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】





ノウハウ

- 企業での人材派遣及び人材育成のノウハウを生かし、若者の還流を起こすための島での還流おこしのしかけづくりの活動を行っている。

プロジェクト名	大人の島留学プロジェクト
年齢	40歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R3.7～
出身地	大阪府箕面市
転出元	大阪府箕面市
前職	(株) リクルート

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

都市部で人材派遣や人材育成に関連する仕事をしていましたが、地方における教育や人づくり、地方創生に関わる仕事がしたいと考えており、海士町の募集を見て自身のスキルを活かした活動ができると感じ、応募した。

○ 活動内容・取組成果

< 島留学・島体験生への研修 >

- ・ 大人の島留学・島体験生への研修の設計・運営を行った。
- ・ 定期的に個別面談を行い、現在の状況を把握しながら、研修プログラムを作成。島留学生、島体験生と事業所の間に立ち、地域側と移住者側のニーズのバランスをとる役割を果たしている。



< 受け入れ事業所調整 >

- 大人の島留学生等を受け入れる事業所との定期的な面談を行い、現状や課題点などを共有。
- 島内事業所の課題や現状の言語化をすることができ、今後還流人材を受け入れ育てる土壌を作り上げている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) aoyama-tatsuya@town.ama.shimane.jp
 (電話番号) 08514-2-2446
 (職場) 海士町役場還流促進特命担当

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://otona-shimaryugaku.jp/>
<https://note.com/otonashima/>



ノウハウ

- プロモーション制作
- イベント企画
- 広報活動（SNS等）

プロジェクト名	新しい人の流れプロジェクト
年齢	55歳（R6.4.1時点）
活動時期	R6.8.1～
出身地	大阪府大阪市
転出元	大阪府大阪市
前職	社会保険労務士事務所 （秋元社会保険労務士事務所）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

母が隠岐の島の出身で幼少のころから夏は隠岐の島で過ごしていた記憶が大きく心に残っています。いつか隠岐の島に移住したい。と思いながら中々前に進むことができないでいました。今回、西郷港周辺まちづくりの取組みで募集を知りました。情報発信や地域の方々の対話であったり、学生と関わりまちづくりを行うことはコミュニケーション能力が活かせると思い応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<西郷港周辺まちづくり>

（学生交流会-隠岐水産高校）

挨拶を兼ねて学生たちと交流会を行った。まちづくりの取組み説明をした後、たこ焼きを作りながら未来の西郷港周辺がどのようなになればいいか、学生目線で意見を出してもらいました。



<西郷港周辺まちづくり>

（まちづくり授業-隠岐養護学校）

世代をつなぐまちづくりにおいて学生とまちづくりを考える。学生たちのアイデアで意見箱を設置し町民の方々から意見などを拾う。意見箱は学生たちが作成しました。



<西郷港周辺まちづくり>

（学生プロジェクト-隠岐水産高校）

まちづくりを通して、学生たちがやりたいことを実現するプロジェクトがスタート。12/8のeスポーツトーナメントの開催にむけて現在活動中です。



【メディア等の取材連絡先】

メール：toshikei@town.okinoshima.shimane.jp

電話番号：08512-2-8580（都市計画課直通）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

URL <https://www.instagram.com/okitoshikeikaku/>





ノウハウ

- フリースクール運営
- 笠岡諸島で地域おこし協力隊として住民と連携して事業実施
- 飛島自治振興会会長の経験

プロジェクト名	笠岡市教育力向上プロジェクト
年齢	53歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4.1～
出身地	岡山県岡山市
転出元	岡山県岡山市
活動経験	笠岡市地域おこし協力隊 (H30.5～R3.4)
前職	学校法人事務局長 (学校法人興譲館)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

離島留学はすべての子どもたちが健全に育まれるための新しい環境とシステムの構築であり、そのことが笠岡市の未来を担う人材の育成に繋がるものであると感じ、私の経験とスキルを活かしたいと思い応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<笠岡市の教育改革に関わる業務>
離島留学推進のための準備組織の設立、
連絡調整・広報業務 など



<長期欠席、不登校の児童生徒に関わる業務>
総合教育相談支援センター等と連携した相談室の解説や体験イベントの開催 など



<市内高等学校の連携推進>
市内県立高校魅力化推進、総合的な探求の時間支援 など



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：gakkoukyouiku@city.kasaoka.lg.jp

職場電話番号：0865-69-2152

(笠岡市教育委員会学校教育課教育改革推進室)

ノウハウ

- 経営マネジメント
- 組織マネジメント
- 商品開発・販路拡大



プロジェクト名	一般社団法人の経営及び組織マネジメント
年齢	39歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	香川県丸亀市
転出元	東京都新宿区
前職	会社員 (株家庭画報ビジネスパートナーズ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

大学卒業後、主に東京都内で仕事をしていましたが結婚を機に妻の住む岡山県へ移住を決意。転職活動中に人材紹介社経由で「一般社団法人むらづくり新庄村」のことを知り、執行理事と面談する中でベンチャーマインド溢れる仕事の取り組み方に惹かれ入職。

⑩デジタル

○ 活動内容・取組成果

<新庄村保育所へのICT導入>

(活動内容)

自治体向け保育ICTサービス「コドモン」導入の進行管理・指導・運用サポート。

(取組成果)

保護者からの連絡、保育所からの連絡、事務管理が省力化されたことにより事務作業の減少と保育時間の増加を実現。



<コドモン写真販売サービスの導入>

(活動内容)

導入したコドモンの追加サービス「写真共有・販売」をR6.11.1～導入予定。

(取組成果)

現状、近隣の写真店へ職員が現像しに行き保護者へ販売しているが、コドモン上で保護者が写真を確認・注文・自宅へ郵送するサービスを導入することで職員の作業量減少・保育時間の増加を見込む。

<コドモン機能拡充及び小中学校への導入検討>

(活動内容)

- ①保育所へ導入後、保護者・職員から好評のため、R7年度より全機能を導入することで更なる業務の省力化と保育・教育の質向上へ向け活用を進める。
- ②保育所での導入成功を元に小中学校へ導入することで同様の効果を得ることができないか探っていく。

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) tsukuda@shinjo-son.jp

(電話番号) 0867-56-7550 咲蔵家



ノウハウ

- 村内の視察対応全般
- 講演会等イベント企画
- 国内旅行業取扱管理者資格

プロジェクト名	村の一体的な観光事業促進のための コーディネートプロジェクト
年齢	28歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	東京都台東区
転出元	東京都台東区
活動経験	西粟倉村 地域おこし協力隊 (H31.4～R6.3)
前職	学生 (中央大学)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

卒業後、地域おこし協力隊として西粟倉村の企業と役場で、起業・移住希望の方へのツアーやインターンの企画、村内外の方々に向けた講演会等のイベント、村内の地域おこし協力隊員向けの研修などを通じて、村内事業者や行政事業、取組について知りました。村が今後は観光にも力を入れていきたいという話を聞き、これまでの経験、つながりを活かしてできることがあるのではと思い応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<村内事業者へのヒアリング>

村内で飲食、宿泊、体験、視察等のサービスを提供されている45の事業者、団体の方々にヒアリングを行い、村の一体的な観光促進に向けた要望や意見を収集しまとめました。



<西粟倉村観光サイトの運用>

今年3月に有志の村民により立ち上げられた観光サイトにつき、各企業からの各媒体情報を発信、そして今後の持続的な運営のためのHPのリニューアルやマニュアル検討を行っています。



<村内視察の一括コーディネート>

村内の視察は従来、視察希望者自身が行程の検討、宿泊施設等の手配を行っていましたが。現在、視察希望者に向けた事前ヒアリングを通じ、視察先の提案、各種手配等を一括して行い、CS向上に努めています。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sankan@vill.nishiwakura.lg.jp

電話番号：0868-79-2230

【有志による西粟倉村観光サイト】

<https://awakura.info/avc>



ノウハウ

- ばらに関する専門的知見を有し、園芸業界に精通している
- 国内外のばらの専門家や企業・団体等とのネットワークを有している

プロジェクト名	SDGs × 持続可能なばらのまちづくり推進プロジェクト
年齢	68歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.7～
出身地	滋賀県秦荘町 (現：愛荘町)
転出元	岐阜県各務原市
前職	岐阜県立国際園芸アカデミー学長

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

福山市には、全市をあげてのばらへの取組やその歴史に先駆的なものがあり、数年前から現地に足を運ぶとともに関係者との交流を行ってきた。世界バラ会連合が主催する大会には、2006年の大阪大会に参加・発表するなど、海外のばら愛好家との交流を図ってきた。これまでの経験を活かしながら、ばらに関わってきた経験の集大成として、2025年の福山大会を成功裏に開催できることに尽くしたい一心と、ばらのまち福山をより磨き上げたいという思いから応募に至った。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<ばらの植栽デザイン計画とばらの新品種国際コンテストへの参画>

2025年福山市で開催の世界バラ会議向けに、市内のばら園の改修が進行中。その植栽デザイン計画チームに参画し、実際に植栽する品種選定へのアドバイスを逐次行っている。また、大会記念ばらの選定に関わる「ばらの新品種国際コンテスト」を主導している。



<第19回世界バラ会議等への参加>

2025年福山で開催の第20回世界バラ会議の前大会、オーストラリアアデレード大会 (2022.10～11開催) に出席したり、地域大会である、ブリュッセル大会 (2023.6開催) でプレゼンを行った。また、パリ・バガテル国際バラコンテストで審査を行うなど、福山大会に向けた情報収集を行うとともに海外のばら愛好家との人的交流を図っている。



<ばら愛好市民団体との交流及び講義>

福山市主催の「ばら大学」やばら愛好団体が行う市民向けのばら講座に加わり、専門的なアドバイスを行うとともに、市民との積極的な交流を行っている。また、市内小学校に赴き、小学生を対象にばらに関する授業も行っている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス)

world-rose-convention@city.fukuyama.hiroshima.jp

(電話番号) 084-928-1210 (職場)



ノウハウ

- 産官学を跨ぐプロジェクトの推進
- 学校現場と外部団体の橋渡し
- 業務改善

プロジェクト名	mineto教育改革プロジェクト
年齢	30歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.4~
出身地	神奈川県小田原市
転出元	東京都渋谷区
前職	事業企画 (株式会社さとふる)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

美祢市と連携協定を結ぶ慶応義塾大学SFC研究所の長谷部准教授は私の大学時代の指導教員であり、今回の公募を知ったきっかけでした。会社員としての経験を公教育の現場で還元したいと考えていたので、非常に魅力的な募集に思えたため、応募を決めました。

○ 活動内容・取組成果

- <公設塾運営>
- ・市教委と塾を繋ぐ週次会議の実施
 - ・公設塾スタッフの業務改善
 - ・自走化に向けた検討
 - ・各中学校との連携



- <大学連携事業の企画>

【出張授業】

公設塾のエッセンスを学校で行う目的で市内中学校で大学生が授業を実施

【宿泊プログラム】

台湾の中学校との姉妹校協定を締結し、中学生の国際交流プログラムの実施・設計



- <アドベンチャーキャンプの実施>

- ・小学生を対象に、「自己決定」と「他者との協働」を学ぶ3泊4日のアドベンチャーキャンプ
- ・スタッフとして参加する、市内小学校の先生への研修デザイン



【メディア等の取材連絡先】

unoyuki.mine@gmail.com

0837-52-9310 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

なし

ノウハウ



- イベント企画・運営
- 地域との関係性構築
- 創業経験

プロジェクト名	蜂ヶ峯総合公園活性化を通じた町への関係人口創出と地域共創事業
年齢	29歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.5～
出身地	茨城県つくば市
転出元	埼玉県春日部市
活動経験	和木町地域おこし協力隊 (R2.8～R5.7)
前職	イベント会社

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

同町での地域おこし協力隊を経験し、町の魅力と課題・人脈を深く知ることができました。持続可能な地域を目指していくためには、同町の観光施設に多くの来場者を迎え、地域コミュニティ創造の場・地域活性化に向けた経済拠点であるべきであると考え、町内外の人材・団体等の連携しながら公園・町の発展をサポートさせていただきたいと考えたため。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<和木町地域振興協会の運営>

蜂ヶ峯総合公園Bee+エリアを管理する一般社団法人和木町地域振興協会のマネージャーとして新規企画立案や意思決定などの統括業務を行う。
予算の策定に関する助言等をしている。



<和木町社会福祉協議会との連携>

同会が管理をしている特産品「いちじく」の担い手不足解消・販路拡大に向けて協力をを行い、協会での販売をスタート。



<姉妹都市北海道恵庭市との商工連携>

和木町の姉妹都市恵庭市との商工連携を模索中。農業分野における特産品開発が難しい環境にある和木町で恵庭市の資源を活用した特産品開発やノウハウ共有、両市町の物産交流などを企画。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：info@withplus.co.jp

電話番号：050-3595-0403

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

ノウハウ

東京都内のイタリア料理店を経てイタリアに渡り、トスカーナ州で3年間の修行を積む。帰国後の平成14年、東京・青山に「ベッカッチャ」をオープン。平成25年に赤坂「ヴァッカロッサ」のシェフに就任。日本における薪火焼きのパイオニアでもあり、独自の焼き方理論を構築。赤身牛肉の発展の為にその理論を公開し、メディア、シェフ、牛肉卸等、牛肉に関係する業界からの信頼も厚い。また土佐あかうしの新たな規格制度であるTRB格付けの構築に協力するなど多くの牛肉生産のあり方に関わる。



プロジェクト名	阿武町の名産地化プロジェクト ～特産品の無角和種の改革を通して～
年齢	55歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.7月～
出身地	千葉県市川市
転出元	東京都港区
前職	シェフ (レストランテ ヴァッカロッサ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

ヴァッカロッサで無角和種の肉を取り扱っていたこともあり、令和2年11月より「無角和種振興アドバイザー」に就任。希少種である無角和種を育て方次第では、一品種の牛が同じ方向性を確立することとなり、世界的にみても非常に希少な存在になり得る可能性がある。さらに、無角和種がそういった存在になれば、社会定意義の視点において、食肉に対して世界的に見直しがされている現在、後れを取っている日本に対して社会的インパクトは非常に大きく、先々への食肉事業に対して模範となる可能性や日本ブランドに対する信用を強める可能性があることからこのプロジェクトに携わりたいと考えた。

○ 活動内容・取組成果

- ・無角和種に関係する肉屋等へのヒアリング及び地域環境や先行事例の調査
- ・地域環境を活用することを前提とした、新たな無角和種の生産のルール作成
- ・無角和種の振興を通して、阿武町を名産地として評価してもらうためのプラン作成
- ・専門家と連携し飼いや肉質や調理方法のテスト実施
- ・町民の無角和種に対する理解の促進
- ・町民や料理人等が阿武町を名産地として認識するための勉強会等、イベントの実施



【メディア等の取材連絡先】

阿武町役場まちづくり推進課

(メールアドレス) machisui04@town.abu.lg.jp

(電話番号) 08388-2-3111

一流シェフ 阿武町特産 "無角和牛"の改革に挑む



ノウハウ



- 商品のブランディング及び価値の創出
- 販売戦略の策定
- 組織マネジメント

プロジェクト名

IoTを活用した牡蠣養殖による
東かがわ市水産業持続的発展事業

年齢

46歳 (R6.4.1時点)

活動時期

R5.9~R7.2

出身地

兵庫県神戸市

転出元

香川県さぬき市

前職

(株) 人生は上々だ

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

東かがわ市の自助・共助・公助の取組に共感し、地域からブランドを発信していく事業にやりがいを感じました。これまで培ってきた自身の知見を活かしていきたいと考えています。市に価値を創出する一役を担っていきたくと考え、現職に至ります。

⑥ 漁業・水産業

○ 活動内容・取組成果

<活動内容①>

- ・データ連携を活用した牡蠣養殖の事業推進に向けた関係者間（漁協、民間事業者等）のマネジメント
- ・環境計測IoTセンサーを用いた、水温・水質をモニタリングの開始に向けた関係者間のマネジメント



<活動内容②>

- ・養殖牡蠣のブランディング戦略の設計
- ・販路開拓活動と市場にむけたマーケティング戦略の設計



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：hk-senryaku@city.higashikagawa.kagawa.jp

職場電話番号：0879-26-1201

(東かがわ市総務部戦略情報課)



ノウハウ

- 薬用作物栽培拡大に向けた圃場情報収集
- 栽培技術情報提供と栽培者組織の育成
- 需要者と生産者を結ぶパイプ作りと取引関係の醸成

プロジェクト名	薬用作物栽培推進事業
年齢	65歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4.1～
出身地	東京都
転出元	千葉県柏市
活動経験	三豊市地域おこし協力隊 (R1.6.1～R4.3.31)
前職	営業管理 ((株)ツムラ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

薬用作物栽培振興を目指す山下市長のもと、薬用作物専任の地域おこし協力隊として着任しました。ほぼゼロからのスタートでしたが、任期满了時には50名を超える栽培者数となり、更なる拡大と地域への定着、組合発足に向け、地域プロジェクトマネージャーに着任しました。

○ 活動内容・取組成果

< 薬用作物栽培の推進 >

- ・薬用作物の産地化を目指し、販路の確立や栽培技術の共有、圃場情報の収集や必要情報の提供を実施。
- ・生産組合の設立と月次勉強会の実施及び市内圃場巡回指導（毎月実施）。
- ・令和6年度末 総栽培者数 75名



< 農業高校との連携事業 >

- ・薬用作物と地域農産物による地域活性化のための連携協定を締結。校内農場にてミシマサイコ等の試験栽培を実施。
- ・志々島の展望台前に校内で育苗した除虫菊を定期的に定植。
- ・市内農家での薬用作物協働収穫作業の実施。



< 需要元との関係醸成 >

- ・最終的な買い取り先である医療用漢方メーカーや有力な生薬問屋との関係醸成
- ・生産者による工場見学とメーカーの生薬管理部門との意見交換会の実施
- ・生薬を処方する医療機関の栽培圃場視察の受入れ



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：nourin@city.mitoyo.lg.jp

職場電話番号：0875-73-3040

ノウハウ

- 商品開発
- 販路開拓
- 販売店舗の強化



プロジェクト名	伊予市版地域DMOを核としたアドボカシーに配慮した持続可能な観光・交流地域づくり
年齢	62歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.6～
出身地	愛媛県今治市
転出元	愛媛県松山市
前職	営業統括部長 (株式会社糸プロジェクト)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

かねてより、海・山・町並みが魅力的な伊予市に興味を持っており、そのポテンシャルの可能性を活かすため、これまでの経験に基づいたプロジェクトに取り組むことで、交流人口・関係人口の増加に寄与したいという思いがあり応募しました。

④ 商品開発・販売

○ 活動内容・取組成果

<栗の新しいブランド化計画
栗ソフトクリーム>

栗産地として有名な中山地区にある「道の駅なかやまクラフトの里」において、市施設指定管理者と協議を重ね、栗を使用したソフトクリームの販売を提案。
R6.11月から販売予定。



<双海地域の商品化計画 醤油あられ>

伊予市の老舗「関木醤油工場」の再仕込み醤油「三歳醤油」を使用した、醤油あられを商品化。国内外からの観光客が増加する下灘地区での関連商品化を目指している。
R6.10から伊予市内にて販売開始。



<特産品開発による誘客効果推進>

旧伊予市・中山・双海地域への交流人口増加策として、一次産品の棚卸を実施し、将来のコアなターゲット層であるZ世代に訴求する商品および店舗開発を行うことを目的に、プロジェクトチームの立ち上げを検討中。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：yoshino-keita@city.iyo.lg.jp

電話番号：089-982-1111



ノウハウ

- Muroto Voiceシリーズは、当初1ヶ月に1本のペースで公開予定だった。しかし、取材対象者の内面に踏み込み問題の切実さを視聴者に伝え、鑑賞を通じて新たな視点を得られるような映像を作るには、想定より長い取材時間と編集時間が必要なことが分かった。
- 市の広報誌やインターネット特設サイトをつくり、地域住民の視聴コメントを掲載している。このことで映像をもとにSDGsを考えてもらうとともに、より多くの人に映像を知ってもらうことにつなげている。

プロジェクト名	室戸ユネスコ世界ジオパークと連携したSDGs推進プロジェクト
年齢	31歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.1.1～
出身地	千葉県山武郡芝山町
転出元	茨城県つくば市
活動経験	室戸市地域おこし協力隊 (H31.1.1～R3.12.31)
前職	JICA青年海外協力隊

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

UNESCOの正式事業としてSDGs達成を事業目標に掲げる室戸ユネスコ世界ジオパークの活動に3年間従事した経験と、自身の映像制作スキルを活かせると思ったため。

○ 活動内容・取組成果

< Muroto Voice >

室戸市で暮らす人々が直面しているSDGsの課題とそれをいかにして乗り越えようとしているかを取材したドキュメンタリー映像シリーズを制作。ユネスコ世界ジオパークに認定されている室戸ならではの、自然環境と人々の暮らしのつながりが伝わるような人々を取材している。映像はSNSや地元ケーブルテレビで発信する他、教育機関等で活用。秋祭りの取材回は、高知県の伝統芸能イベントでも上映された。



< SDGs取り組み事例のデータベース >

室戸ユネスコ世界ジオパークと連携しながら、室戸市内のSDGsのゴールにむけて取り組む人のデータベースを作成する。

< その他SDGs推進に関わる活動 >

市担当課と室戸ジオパーク推進協議会等の民間団体、地域住民との橋渡しによるSDGsの推進等。

【メディア等の取材連絡先】
室戸市まちづくり推進課
0887-22-5161 / mr-011200@city.muroto.lg.jp

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
Muroto Voice特設サイト：
<https://www.mugp.org/muroto-voice>

YouTube：
<https://www.youtube.com/channel/UCjzKyJxoueaAngIjmuNCvCg>
<https://www.youtube.com/user/murotoqoe>

twitter：https://twitter.com/toeda_lion
Instagram：<https://www.instagram.com/sumitoeda/>





ノウハウ

- 民間企業に営業職として10数年従事した経験により培われた「人間関係構築」「コミュニケーション能力のスキル」
- 10年以上蓄積された趣味のキャンプ・アウトドア経験を活かした顧客度満足度の向上

プロジェクト名	観光による地域活性化プロジェクト
年齢	47歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.7～
出身地	大阪市
転出元	大阪市
活動経験	東洋町地域おこし協力隊 (R3.6～R6.6)
前職	三幸工業株式会社

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊のミッションとして配属になった東洋町観光振興協会は、事務局員全員が地域おこし協力隊であるため、今後、協会が運営する様々な事業や、事務局自体の、継続的な運営が課題であり、町役場と協議したうえ地域プロジェクトマネージャーとなり、事務局長として課題に取り組むこととなった。

○ 活動内容・取組成果

<ビーチホッピング運営>
令和元年より地域おこし協力隊が主体となって運営が始まっている事業であるため、運營業務引継ぎのマニュアル化をはじめ、安全対策の強化、アルバイトスタッフの確保のため、大学生のインターンシップの受け入れ等を行う



<野根川オートキャンプ場運営>
東洋町野根の川口地区、旧小中学校跡地に建設されたキャンプ場の運営。野根川の良さを味わって貰うため、川を見ながらのテントサウナやドラム缶風呂を体験できる施設を設けた。また川口地区の方々とコミュニケーションをこまめに取りる事により、理解を得ている。



<ビーチサッカー大会誘致>
夏季以外の閑散期が課題の東洋町。秋～春の期間、白浜海水浴のビーチを活用出来るものとして、ビーチサッカーを提案。日本ビーチサッカー連盟と連携し今後の大会誘致のため、令和6年11月にビーチサッカーフェスティバルを開催予定である。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kanko@toyo-kochi.com
電話番号：0887-23-9500

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://toyo-kochi.com/>
https://www.instagram.com/stories/toyo_tourist_association/



ノウハウ

- 教育・学習支援
- 国際協力活動
- 語学力
- 国内外での多様な職歴及び活動経験



プロジェクト名	本山まちなか活性化プロジェクト
年齢	48歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.6～
出身地	東京都三鷹市
転出元	東京都三鷹市
前職	JICAマダガスカル事務所

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

本山町での募集を知ったことから。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<活動組織設立>

プロジェクトを実行していく住民活動組織の設立を行い、収益活動等を通じ自立して自走化が図れる仕組み作りを行っている。
 ・R6.8任意団体設立、R7に法人化を進める。

<住民や関連団体との合意形成>

まちなか連絡会議の開催や住民・団体等との協議による実行計画の策定。



<住民コミュニティ造成イベントの開催>

まちなか及び住民等の賑いづくりとしてイベントを実施。
 ・R6.9 まちなかチャリティバザー
 ・R6.10 まちなかビアガーデン
 ・R7.2～3 まちなかひな祭り、マルシェ予定



【メディア等の取材連絡先】

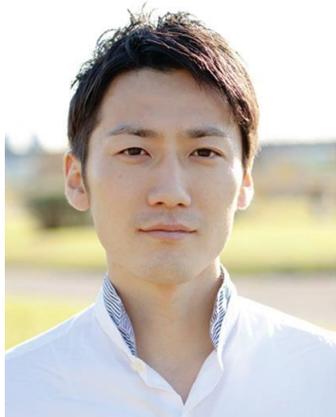
メールアドレス：kikaku@town.motoyama.lg.jp

電話番号：0887-76-3915

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61561174911273>

https://www.instagram.com/motoyama_machikatsu/



ノウハウ

- デザイナーとして地域おこし協力隊任期中に起業
- 広告プロダクションにてプロデューサーとして活躍
- 地域での様々なプロジェクトに参画

プロジェクト名	土佐町情報発信プロジェクト
年齢	39歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.12～
出身地	京都府城陽市
転出元	東京都大田区
活動経験	土佐町地域おこし協力隊 (R2.4～R5.9)
前職	広告制作プロダクション

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和2年度から土佐町の情報発信及びデザインを担当する地域おこし協力隊として活動。土佐町役場や町内事業所における様々なデザインを手掛ける。土佐町において新たに「情報発信プロジェクト」を立ち上げるにあたり、デザインや発信面のノウハウと、地域内でのネットワークを併せ持つ人材として、地域プロジェクトマネージャーへの就任を打診された。

○ 活動内容・取組成果

<デザイン>

・土佐町のSDGs推進をコンセプトとしたTシャツやスウェット等を製作。売り上げの一部を、森林保全や水源涵養に取り組む地域団体に寄附する仕組みを構築した。



<情報発信>

・イベント等において、土佐町のSDGs推進や役場各課のSDGsに関する取組の展示企画等を主導。地域住民や、イベント参加者に向けて「持続可能なまちづくり」に関する情報発信を行った。



<オープンデータ、インバウンド>

・土佐町情報発信プロジェクトに配置された地域おこし協力隊員を、地域プロジェクトマネージャーの立場でマネジメントしながら、オープンデータの推進や海外向け情報発信（インバウンド）にも着手。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) toast-21@town.tosa.lg.jp

(電話番号) 0887-82-2450

(職場：いずれも土佐町役場 企画推進課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 広報・PR
- 商品マーケティング
- プロジェクトマネージメント

プロジェクト名	シン・鯉乃國プロジェクト
年齢	46歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.9～
出身地	高知県高知市
転出元	神奈川県鎌倉市
活動経験	中土佐町地域おこし協力隊 (R3.9～R6.8)
前職	BS・CSテレビチャンネルPR

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

就任前は地域おこし協力隊として、カツオが名物の「久礼大正町市場」PRを担当。活動を通じて、高知人のソウルフードである「カツオ」の魅力を活用して地域を活性化させる可能性を強く感じました。そこで人口減少が進む町で、多面的かつ横断的に土佐久礼かつおの価値を高め、産業拡大を図り、カツオ関連産業を持続的に成長させていく事を目的に立ち上がった「シン・鯉乃國プロジェクト」の事務局長に応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<「土佐久礼かつお」の首都圏・関西エリアでのPR施策>

【外商面】

R6年10月、東京・大阪の高知県アンテナショップにて「土佐久礼かつおフェア」を初開催。

【観光面】

R6年10月、高知県庁の観光施策と連携し首都圏メディア向け土佐久礼かつおPR取材会を実施。全国TVで紹介される。



<観光拠点の駅リニューアルにあわせた「カツオアート展」開催>

R6年10月、久礼地区の観光の玄関口となる土佐久礼駅のリニューアルにあわせて、カツオの町・焼津の「カツオアート」の中土佐町バージョンを展示。カツオの町同士のつながり創出と共に、カツオの町観光の満足度向上を図る。

※参考ニュース

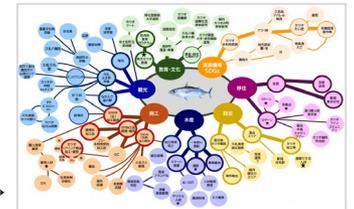
<https://www.kochinews.co.jp/article/detail/798391>



<カツオプロジェクト協議会設立に向けた準備活動>

R6年度カツオプロジェクト協議会設立に向けた準備を行う。未来のカツオの町のビジョン制作や財源確保の為の企業版ふるさと納税の寄付誘致活動などを役割担当者と連携し遂行。

未来のカツオの町ビジョンマップ→



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：hisatake39@gmail.com

電話番号：0889-52-2365



ノウハウ

- 学習環境デザイン
- デジタル・アーカイブ
- コミュニティマネージャー

プロジェクト名	ICT及び地域人材を活用した学び合いの場づくり
年齢	35歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4.1～
出身地	神奈川県川崎市
転出元	神奈川県川崎市
活動経験	高知県佐川町地域おこし協力隊 (R1.4～R4.3)
前職	大学附置研究所職員

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

佐川町は未来へ向けた教育構想である「さかわ未来学」を推進しています。「文教の町さかわを継承し、佐川町の未来を担う創造性にあふれ地域を愛する人材を地域ぐるみで育てていく。」という方針を図書館を含めた新文化拠点や学校、地域とがどのように連携して育ていけるか、共に考え実践していきたいと思い、地域プロジェクトマネージャーとなりました。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<新図書館の情報環境設計コーディネート>

新しい図書館の建設にあたり、データベースや機器などの情報環境を整備するとともに、地域社会との交流ネットワークの構築を進め、ワークショップの実施なども行っています。



<地域資源の生成 / 収集 / 活用 / 共有>

地域に存在する有形・無形の文化資源情報を収集し、デジタルアーカイブ化を進めています。また、それらの資源を活用しながら、新たな情報の生成、発信を行っています。



<小中高総合・探究学習サポート>

小中学校や高校での総合的な学習や探究的な学習の時間において、コーディネートを担当しています。地域と学校をつなぎ、学習活動のサポートを行っています。



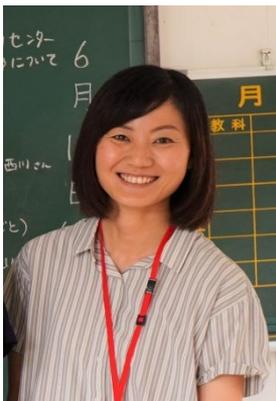
【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：

電話番号：0889-20-0202 (佐川町立図書館)

note: https://note.com/sctpm_omc/





ノウハウ

- 課題をデザイン思考で考えカタチにする
- 地域住民との丁寧な関係性づくり

プロジェクト名	町のDESIGN室プロジェクト
年齢	43歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.4.1～
出身地	大阪府堺市
転出元	高知県黒潮町
活動経験	黒潮町地域おこし協力隊 (R3.4.12～R3.3.31)
前職	学芸員 (NPO砂浜美術館)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職により「課題をデザイン思考で考える」経験と、町のアドバイザー梅原真氏との関係性があり、町が求める「町のDESIGN室プロジェクト」に共感するとともに、自身の力を発揮できると考えたため。地域おこし協力隊の経験や、地域内のNPO、団体、民間企業等との関係性も活かし、即戦力としての活動がイメージできた。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<町のテーマ活用>

昨年度、町のアドバイザーと町民のワークショップで作成した町のテーマ「空想をカタチにする町」を広めるため、空想を自由に描くポスター募集を企画。ポスター掲示等を機に町民の空想を聞き取り、共にカタチ化を考え伴走している。(プロセスのデザイン)また、テーマを町のデザイン戦略に活用する企業版ふるさと納税プロジェクトを作成中。



<地域おこし協力隊定例会>

毎月の定例会自体をデザイン。協力隊の情報交換・相談窓口としての機能に、地域との交流や体験の機会を追加するため、庁舎内会議室ではなく、自然豊かな場所、特徴的な施設等様々な“会議室”で開催(砂浜、集落活動センター、避難タワー、ゆず園など)。協力隊にも好評で、活発な意見交換や町民との繋がりが生まれ、定例会を楽しみにする隊員も多い。



<関係人口・交流人口の拡充>

東京において100人を集客する黒潮町の交流イベント「世界空想予祝会」を移住相談会でつながった春日井製菓主催で行う。黒潮町の魅力をPR。自らが黒潮町のファンであり観光、移住、特産品づくり、販売などあらゆる分野において関係人口、交流人口の増加を目指す。

【メディア等の取材連絡先】

nishimura.yumi@town.kuroshio.lg.jp+
0880-43-2177 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 電力事業運営
- 再エネ導入、省エネ推進
- 地域脱炭素計画立案

プロジェクト名	うきは市地域エネルギー マネジメント推進プロジェクト
年齢	53歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.4～
出身地	東京都国立市
転出元	熊本県熊本市
前職	スマートエナジー熊本(株) 代表取締役

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2022年夏よりうきは市の脱炭素戦略立案・事業化検討について支援業務をさせて頂いており、業務を通じ本事業の将来性や市役所の方々の熱意に大きな魅力を感じていた。2023年1月に地域プロジェクトマネージャーが公募され、その業務に大きなやりがいを感じるとともに、これまで培ったノウハウ等が大いに生かせるのではないかと考え応募、採用頂いた。

○ 活動内容・取組成果

<地域エネルギー事業会社設立・運営>
昨年度当初より民間事業者と共に設立準備を進めていた地域エネルギー事業会社「(株)カゼノネ」が、うきは市も16%出資する形で2024年2月に設立。現在、公共施設へのゼロカーボン電力供給のR6年度内開始へ向け、準備作業を進めている。



<脱炭素先行地域づくり事業>
うきは市は本年1月、環境省より「脱炭素先行地域」に選定。上記のカゼノネや民間共同提案者と共に、観光農園や生物多様性保全地域等、指定されたエリアの脱炭素化へ向けた様々な活動を展開中。



<市有施設の再エネ・省エネ対応>
脱炭素先行地域選定を受け、市役所庁舎や下水処理施設、道の駅、茶位育施設といった市有施設に対し、太陽光発電設備やバイオマスボイラ設備の導入等について、民間事業者と共に準備作業を進めている。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) RJ301024@city.ukiha.lg.jp

(電話番号) 0943-73-7667 (職場)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 行政計画策定業務
- 法人設立、新規事業の創出
- 観光コンテンツ創出

プロジェクト名	英彦山宿坊推進プロジェクト
年齢	37歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.6～
出身地	福岡県北九州市
転出元	福岡県北九州市
前職	建築都市計画コンサルタント

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

英彦山で来訪者や地域の関係者の方々と日々関わる中で、地域と連携して観光を推進していく組織の必要性を感じてきました。地域の持続化、環境保全や歴史資源を守っていくためには、修験道の独自性を活かした観光コンテンツの開発、宿坊の保存活用が必要であり、この機会を活かさなければ、地域全体の衰退が加速していくという危機感から応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<英彦山文化観光まちづくり検討委員会>
令和5年に会長を町長、副会長を英彦山神宮宮司という体制で、歴史的資源を活用した観光まちづくりを推進するために設立された委員会において、事務局長として運営を行い、英彦山の宿坊を活用した事業計画の策定、協議を行っている。



<山伏体験ツーリズム創造事業>
日本三大修験山の一つである英彦山の独自の文化を活かした観光コンテンツの商品化に向けて、英彦山神宮、地域の事業者、専門業者と協働して、モニターツアーの実施から、販売体制の構築に向けて事業を進めている。



<英彦山修験道体験>
検討委員会において協議、検討を進めながら、英彦山の修験道文化を伝える本物体験として、英彦山神宮と連携した定期開催コンテンツとして英彦山修験道体験の開発を行い、販売を行っている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：hikosanbunkakanko@gmail.com

電話番号：0947-82-1236

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://soeda-hikosan-tourism.com/>



ノウハウ

- 安定的なチーム組織運営体制構築
- 月次報告/決算書の作成
- 村役場等への連絡調整
- その他業務

プロジェクト名	オープンな組織文化を育む特命マネージャー
年齢	34歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.7～
出身地	愛知県名古屋市
転出元	福岡県赤村
活動経験	あか村地域おこし協力隊 (R5.5～R.6.6)
前職	地域おこし協力隊 (キャンプライフ・コーディネーター第2期)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊として赤村で暮らしながら源じいの森で1年間活動してきた中で、多くの魅力や潜在的な強みを発見し、今後もさらに深く関わりたいと思うようになりました。そのために、私自身が人と人を繋ぐ潤滑油となり、スタッフや役場職員と一緒に「今まで以上に愛される源じいの森」「赤村自慢の源じいの森」を作り上げたいと考えたのがきっかけです。

○ 活動内容・取組成果

<組織運営マネジメント>

赤村の主要施設、源じいの森の支配人として日々の施設運営業務を実施。受付や清掃、業者調整、情報発信、会計などをスタッフが行っており、それら業務の管理及び改善が主な仕事。



<収支目標の策定と運営体制構築>

組織の経営状況の取りまとめを行い、数字の見える組織運営を目指す。円滑に業務が進められるためのチームづくりを行い、部門別の運営体制サポートと業務の効率化を行う。

人事評価制度の確立と社内研修等のシステム構築を図る。



<村役場等への連絡調整>

役場との調整はもちろん、団体の経営は理事会が担うため、理事会運営の調整や業務改善の提案、スムーズな運営ができるように調整をしている。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：info@genjii.com

電話番号：0947-62-2911

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<http://www.genjii.com> (一般財団法人 源じいの森)



ノウハウ

- 運営マネジメント
- 月次報告/決算書の作成
- 村役場等への連絡調整
- その他業務

プロジェクト名	ローカル複合施設の再生&運営プロジェクト
年齢	56歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R3.5.1~
出身地	福岡県福岡市
転出元	福岡県朝倉市
前職	事務局長 (原鶴温泉旅館協同組合)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

観光関連や物産振興に対し、民間の立場で地域や自治体と関わって10年以上が経ち、もう少し自治体の懐に入り込んで仕事ができなければ、本当の地域活性化に役立つことは難しいということも何度も痛感してきた中で、自治体と地域おこし協力隊員のミスマッチが多々起こること、その間に入って調整する翻訳家のような立場の制度が早々にできるのではないかと予想し、そんな役についてみたいと考え行動したのがきっかけです。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<運営マネジメント>

赤村の主要施設、源じいの森の支配人として日々の施設運営業務を実施。受付や清掃、業者調整、情報発信、会計などをスタッフが行っており、それら業務の管理及び改善が主な仕事。



<企画開発マネジメント>

新たなお客様獲得に向けての新規企画を、スタッフやキャンプライフ・コーディネーター（地域おこし協力隊3名）と共に企画・実施。また、村内外企業団体との連携や集客のための営業活動も実施。さらに、メディアへの情報発信、取材対応等も実施している。



<村役場等への連絡調整>

役場との調整はもちろん、団体の経営は理事会が担うため、理事会運営の調整や業務改善の提案、スムーズな運営ができるように調整をしている。

令和3年度には、コロナ禍においても、来場者数約14万人（前年比約3万人アップ）の集客アップに尽力した。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：genjiinomori@mb.fcom.ne.jp

電話番号：0947-62-2911

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<http://www.akamura.net> (一般財団法人 源じいの森)

ノウハウ

○NPO法人の立ち上げや運営を担っていた経験から、組織作り・マネジメントの技術が活用できる

○首都圏出身であり地域おこし協力隊の頃、観光産業に携わっていた経験から、観光客が地方観光に求めるもの・ことへの知見がある



プロジェクト名	自然や歴史を活用した観光資源の創造・価値向上プロジェクト
年齢	37歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.9～
出身地	神奈川県横浜市
転出元	神奈川県横浜市
活動経験	福岡県大川市地域おこし協力隊 (H29.7～R2.11)
前職	会社 (株) 佐賀自然環境機構

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

以前、福岡県大川市に地域おこし協力隊として産業観光の振興に携わらせていただき、その後は拠点を横浜に移しながらも関東と九州を行き来しながら仕事をしておりました。

その折に佐賀県で仕事をすることがあり、上峰町に掲載されていた公募を拝見し、地域の財産を使った観光開発に関心があったことや、かつて培った経験を活かせると思い応募いたしました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

< 中心市街地の再開発事業 >
 ・上峰町の中心市街地を再開発する事業について、地域プロジェクトマネージャーという立場で行政と業者間における日程や役割の分担と調整、進捗や情報の共有・整理に取り組んでいる。



< 鎮西山の整備事業 >
 ・上峰町の観光資源である鎮西山の整備を実施するにあたり、現在は事業のプランニングやチームの作成に取り組んでいる。



< 観光プロジェクトの開発 >
 ・地域資源を活用したプロジェクトの開発に協力させていただいており、商品やイベントの開発、地域文化や伝統の継承のできる組織作りなどに携わっております。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) kamimine.pm@gmail.com

(電話番号) 0952-52-2182 (勤務先・上峰町役場政策課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

なし



ノウハウ

- IT全般に対する知見・経験
- プロジェクトマネージャーの経験
- デジタルマーケティングの知見・経験

プロジェクト名	Ocean Good Art
年齢	40歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.5～
出身地	富山県富山市
転出元	富山県富山市
活動経験	地域活性化起業人 (R3.7～R6.3)
前職	会社員 (シダックス株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

久保伯人氏が、地域活性化起業人としてシダックスから出向中に「Ocean Good Art」プロジェクトを企画・提案し、市の事業として推進。地域活性化起業人の任期満了後、地域プロジェクトマネージャーの募集を出したところ、同プロジェクトを継続発展させたいという強い意志を持つ同氏が会社を辞して応募。選考の結果、採用に至る。

○ 活動内容・取組成果

「Ocean Good Art」のマネジメント
海ごみ問題の普及啓発と回収量の向上を目的に「Ocean Good Art」プロジェクトを立ち上げた。Social Good (社会にとって良いこと) をより具体化し、海ごみ×Art×デジタルを切り口に「Ocean Good」(海にとって良いこと) を目指している。



<プロジェクトの管理・運営>

- ・事務局の管理、アーティストやNFT発行機関等との調整、ガバメントクラウドファンディングによる資金調達などプロジェクト全体の管理を行い、円滑な事業運営に努めている

<作品の展示>

- ・対馬の海ごみ問題啓発を目的として、市内外においてR5年度に完成した海ごみアート作品6点の展示会を行っており、作品が完成してから8カ月間に8か所で展示を行っている



<プロジェクトの普及啓発>

- ・プロジェクトおよび対馬の現状を伝えるため、企業向けのセミナー講演、新聞掲載や書籍への寄稿などを積極的に行っており、メディア掲載が30件以上、講演はオンラインを含めて4回行った



季刊『しま』寄稿

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: info@oceangood.art

電話番号: 0920-53-6111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

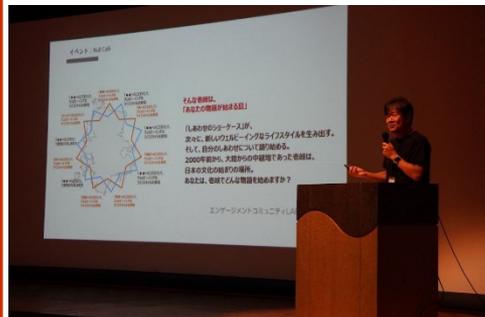
<https://oceangood.art/> (Webサイト)

<https://www.instagram.com/oceangoodart/> (Instagram)



ノウハウ

- 地方創生推進交付金事業計画策定支援
- 自治体DX推進計画策定支援
- SDGs未来都市事業プロジェクトマネジメント経験



プロジェクト名 壱岐市SDGs未来都市推進事業

年齢 58歳 (R6.4.1時点)

活動時期 R4.7～

出身地 山口県長門市

転出元 東京都墨田区

前職 IT関連
(富士フィルムビジネスイノベーションズジャパン)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

壱岐市SDGs未来都市モデル事業の民間責任者として住民や企業と行政のパイプ役として活動してきた経緯から、推進計画の内容や推進上の課題を熟知していること、さらに全国の自治体や企業に対して官民連携の地方創生推進事業を通じて保有している広範囲なネットワークにより、本市のSDGs未来都市計画の確実な遂行と産官学民の橋渡し役として当事業に貢献できると考えたため

○ 活動内容・取組成果

<農業DX・スマート農業>

アスパラガスAI自動灌水システムの企業等との共同開発により、農作業の省力化を実現。
企業・農家・農協・県及び市の農林担当等で構成するスマート農業推進協議会により、各ステークホルダー間の連携調整を行った。

株式会社クボタ、株式会社ルートレック・ネットワークスと壱岐市エンゲージメントパートナー協定締結。



<地方創生テレワーク推進>

市営：壱岐テレワークセンターFree Will Studioを中心に、テレワーク・ワーケーションの推進、企業研修、教育旅行、大学ゼミ合宿、視察等の受入。地域課題と企業等のマッチングにより、共創機会創出の取り組みを行っている。

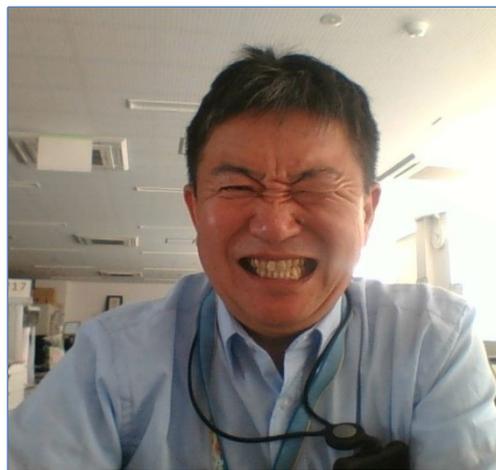


【メディア等の取材連絡先】

壱岐市役所総務部SDGs未来課

(メールアドレス) iki-sdgs@city.iki.lg.jp

(電話番号) 0920-48-1137



ノウハウ

- 鳥獣管理士でもあり、地域課題の合意形成を多数経験。
- 国内外の大学勤務経験があり、専門（公衆衛生）分野の国際誌投稿もする専門家で語学堪能。
- 地域おこし協力隊時代に地域の拠点「鶴田商店」の立ち上げ、経営をしている

プロジェクト名	地域の絆再生プロジェクト
年齢	57歳（R6.4.1時点）
活動時期	R4.4～R7.1
出身地	東京都世田谷区
転出元	栃木県河内郡上三川町
活動経験	五島市地域おこし協力隊（H31.4～R4.3）
前職	公務員（五島市役所：地域おこし協力隊）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和2年襲来した台風9号と10号の中で、市民が総出で自分たちの地区を復旧させようと、自主的に市道を貫通させようとチェーンソーを手で倒木の撤去を始めていた。凄まじい人間力である。この人間力があれば、今まで見たこともないような大きな事業が興せるのではと実感したことから、就任を決意した。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<外国人や若手住民の活動機会の創出>
技能実習生など外国人が増加している地域において、どのような交流方法があるのかをJICA職員等とつないで企画検討した。更に農業地域の活性化のために若手事業者の会議を興して、R6年度より、国土交通省の事業を利用して、RMOに取り組んでいる。



<地域の伝統文化継承技術開発>
地域伝統文化「チャンココ」「神楽」の伝承教材を作成するために、東京大学フィールドスタディー事業を利用して、東大生と青年団や保存会さらに小中学校を繋いで、ワークショップを5回開催した。伝統文化教育の意義評価を試みた。



<地域の課題解決への取り組み>
地域で声にならない不安や不満を地道に通って聞き出し、保育所移転問題や自然資源盗掘問題に対し、関係課や大学専門家、議員、環境省担当官等と住民が気軽に話し合える場をコーディネートした、住民が主体的に地域課題に取り組み、解決できる道筋を模索している。



【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）nozawa-t@city.goto.lg.jp
（電話番号）0959-76-3070（職場）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/TamanouraAFA>

（玉之浦町未来拠点協議会）



TAMANOURAFA



ノウハウ

- 戦略的提案型営業と課題解決型営業 (BtoB経験)
- 事業企画とプロモーション
- チームマネジメント

プロジェクト名	地域資源を活用したキラリと輝くまちづくりプロジェクト
年齢	46歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.5.1～R9.4.30
出身地	長崎県佐世保市
転出元	千葉県千葉市
前職	営業職 (大手化学メーカー)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地元佐世保に帰省するたびに、自然豊かなでアットホームな温かい雰囲気のある東彼杵町である一方、年々衰退していく有様を肌で感じ、「何か、自分にできることはないか？」考えていた。お試し住宅(大迫の宿)に宿泊した際、当時高3と中3の子どもたちが「この町、いいね」と打ち明けてくれたことと家内の後押しもあり、自分が積み上げてきた企業経験を使った町づくりに挑戦したいと思い応募した。

② 不動産利活用

○ 活動内容・取組成果

<陸上養殖構想>

- ・町内遊休施設を活用した陸上養殖事業構想の企画提案を実施。
- ・都内開催の展示会を訪問して得た人脈と町内外関係者のブリッジ役となる。
- ・R7年度は本事業に地域おこし協力隊を導入し、町の漁業活性化を狙う。



<スケートボードパーク構想>

- ・町内遊休施設を活用した全天候型スケートボードパークの企画提案を実施。
- ・競技人口調査、マーケット調査を行い五輪選手を輩出するキッズトーナメント関係者との人脈形成を進める。



<町の魅力PR>

- ・読めない、書けない故に検索されない町の認知度UPのため大阪・関西万博を活用したPRプロジェクトを敢行。
- ・4か月で特産品そのぎ茶を使った茶道用抹茶が約4,500人(内、海外500人)に振舞われ、町内事業者の売上に貢献。



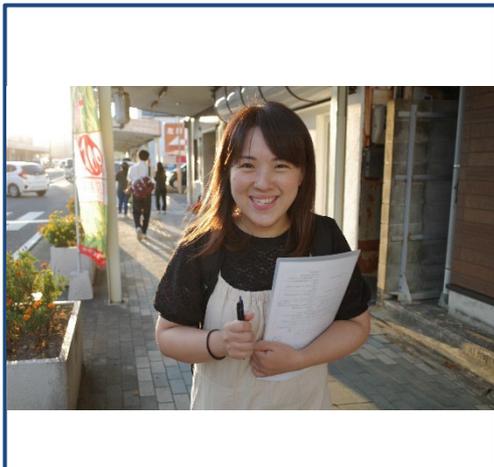
【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kikaku@town.higashisonogi.lg.jp

電話番号：0957-46-1286

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

note https://note.com/higasono_promane/



ノウハウ

- SNS情報発信
- 行動力
- アイデア・企画

プロジェクト名	交流・関係人口による持続可能な川棚町まちづくり等活性化プロジェクト
年齢	39歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.6～
出身地	大阪府高槻市
転出元	長崎県東彼杵郡川棚町
活動経験	川棚町地域おこし協力隊 (R1.6～R6.5)
前職	マッサージ師

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊として活動していた際に出会った方々との人脈や、イベントやボランティアスタッフとしての経験したことなどをもち活かしたいと思い、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<地域課題・活動団体の洗い出し>
町で地域活動を行っている団体を掘り起こし、課題・担い手不足の対応策を思案中。地域活動をHPに掲載予定。本町で地域活動をしている団体と町内外の方を繋げられるよう取り組んでいる。



<長崎県川棚町移住体験モニターツアー>
R6.10月～移住体験モニターツアーの募集を開始。参加者へ観光だけでなく、移住者と話したり、散策しながら町の詳細を紹介するマチプランを実施し、移住者が求める内容になるべく寄り添って提供できるツアーを考えている。



<イベント団体とボランティアのマッチング>
今年度は4つのイベント団体とボランティアをマッチングさせ、町内外から参加者・ボランティアを募っており、参加した方、ボランティアをした方が「また川棚町にきたい」「イベントに参加したい」と思えるようなきっかけづくりを行っている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kizai@town.kawatana.lg.jp

電話番号：0956-82-6116

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

instagram：@kawatana3po



©KAWATANA3PO



ノウハウ

- 広告代理店で培ってきたAD・PR・SP全般の業務
- 企画・制作におけるプロデュース
- 首都圏内教育関連におけるコンサルティング

プロジェクト名	やまえ栗を中心とした「YAMAE PROMOTION PROJECT」
年齢	62歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R5.4~R8.3
出身地	熊本県山江村
転出元	東京都大田区
活動経験	山江村地域活性化起業人 (R4.8~R5.3)
前職	広告代理店 (株式会社サンケイアイ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

もともと実家がこの山江村にあり、大学から東京の方へ移り、就職。仕事は大学卒業後出版社に入り、その後フジサンケイグループに所属し、メディアから広告代理店とマスコミ関連の仕事に従事。定年直前にグループ内で地方創生の一環で「地域活性化起業人」の施策に取り組むこととなり、定年退職という機会にこれまで培ってきた知見を活かして、実家のある山江村に貢献したいと考えました。

④ 商品開発・販売

○ 活動内容・取組成果

<山江村石蔵活用拠点整備>

産業振興とにぎわいの創出を図る「山江村石蔵活用拠点整備基本計画」策定に携わり、計画の実現に向けたサポートを行う。また、同施設的设计業務委託に関する公募型プロポーザルで選考委員を務める。加えて、同施設敷地内の新たなカフェの建設計画において、具体的な運営方法やビジネスプランの検討に取り組む。



<ミシュランパティシエスイーツ教室>

令和5年度に引き続き、ミシュランパティシエ平瀬祥子氏のスイーツ教室を開催。対象は中学3年生で、「やまえ栗」を使ったスイーツをすることによって、その美味しさと誇りを持ってもらうことがこのイベントの狙い。このイベントを続けることで栗の後継者の問題や移住定住の課題解決につなげていきたい。



<尾寄崎キャンプ場再建に向けて>

令和2年7月豪雨被害で被災し、現在休止中となっている尾寄崎キャンプ場の再建に向けて、キャンプ場改修事業の事業手法やキャンプ場のニーズ、リニューアル事例等の情報収集を行い、関係部署や外部専門家との連絡調整・意見集約を行っている。同様に今後は尾寄崎キャンプ場に留まらず山江地区におけるキャンプ場のプロデュースを手掛けていきたい。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) yamaepromane@gmail.com

(電話番号) 0966-23-3111 (代表)

(職場・その他) プロジェクトマネジメント推進室

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 産地・農家への技術援助対応（タバコ）
- 原料加工における工程・品質管理業務
- 研修・採用および人材育成のスキル

プロジェクト名	ここにしかない「価値」を創る株式会社あさぎり商社
年齢	55歳（R6.4.1時点）
活動時期	R4.6～
出身地	鳥取県鳥取市
転出元	熊本県菊陽町
前職	日本たばこ産業株式会社

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

農作物であるタバコを通じ、全国の産地や農家の課題を受け止め対応してきたが、会社利益の優先もあり、解決に繋がることは多くなかった。JTも認める重要な農業産地であるあさぎり町（人吉球磨地域）を、未来に繋がる日本農業産地とする一助とすべく、町の公募に応募。

○ 活動内容・取組成果

<特定地域づくり事業協同組合>

- ・令和5年4月に農業事業者のみによる協同組合を設立し、稼働率90%以上となる運営体制を構築中。
- ・令和7年度において、組合員35名・派遣職員7名での運営が見込まれている状況。
- ・今後は、専用機器のオペレーターとして、機械組合・営農組合への拡大を検討。



<人口減少問題への対応>

- ・協同組合をひとつの仕組みとして活用し、県立農大・地元農業高校の新卒者の受け入れ先としてのフローを整備中。
- ・令和6年よりワーキングホリデー事業を開始。タイミートラベルから始め、今後は「ふるさとワーキングホリデー」@総務省や「おてつたび」等で展開予定。



<共創まちづくり事業>

- ・行政および地域おこし協力隊と連携し、地域商社で共創、地域共生圏づくり、人口減少対策およびSDGs事業を受託した上で事業を展開。
- ・上記の各イベントに加え、協同組合における協業の中から、関係機関や地元事業者・企業のステークホルダーを増加中。



【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）asagirikumiai@gmail.com

（電話番号）0966-45-7211 役場

0966-47-0590 あさぎり商社（駐在）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- 農業生産法人の経営
- 未利用素材（廃棄果樹や野菜）から機能性素材を開発する事業の経験※受賞歴有
- 自治体のふるさと納税商品の開発経験

プロジェクト名	自律・自走できる「地域振興促進組織」の構築と地域活性化プロジェクト
年齢	56歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.8～
出身地	福岡県八女市
転出元	福岡県福岡市
前職	合同会社井忠※現業

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

もともと全く知らない町ではあったものの、他の事業で訪れた際に過ごしやすく感じたことに加え、一時産業（農業や水産業）を主幹産業とする苓北町なら、これまでの経験や知見が生かせるのではないかと思い苓北町プロジェクトマネージャーに応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<観光協会の法人化と自走化>

観光振興の旗振り役となる観光協会の法人化とその後の自走化に向けたプロジェクトを担当。町では15年ほど検討されてきた事案だが、これまでの法人経営の経験を生かし早期の法人化を提言。法人設立準備委員会を立ち上げ、新たな観光協会の体制づくりを実施。令和6年12月1日に新観光協会の設立を予定しており、令和7年度以降は地域資源をいかしたPB商品の開発・販路開拓を計画。

<ふるさと納税のブラッシュアップ>

2022年度のふるさと納税ランキング(熊本県)で43/45位であった苓北町のふるさと納税のブラッシュアップを実施。

担当部署と商品ページの見直しや体験型商品（案）の追加提言を行うなど課を横断した取組みを行っている。

結果として、町が委託している事業者との相乗効果により2023年度のふるさと納税受入額が前年度比で2～3倍に増加した。

【メディア等の取材連絡先】

苓北町役場 商工観光課

〒863-2503 熊本県天草郡苓北町志岐660

(メールアドレス) kankou@town.reihoku.lg.jp

(電話番号) 0969-35-3332



ノウハウ

- 旅行会社出身で旅行商品造成のシステムを理解している。
- 観光・ツーリズム、まちづくりの知識（多くのまちを視察研究）を保有。
- 産官学連携で学生を活用した地位活性化の手法を熟知している。
- キャリアコンサルタント資格（国家資格）を有しており、働く意義のアドバイスができる。

プロジェクト名	地域商社プロジェクト
年齢	70歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.8月～
出身地	兵庫県神戸市
転出元	兵庫県川西市
前職	大学教授（流通科学大学）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

・2022年に大学教員を定年で退職しました。それまで近畿日本ツーリストで30年間、2年間の大学院研究生生活を経て11年間ツーリズム、まちづくりの専門家として大学教員をしておりました。退職後、非常勤講師等を行っていましたが、今までの経験を地域活性化に役立てたいと思い応募しました。地域商社設立に向けての採用ですが、観光関連事業も柱として含まれるため力を発揮できると思って挑戦しています。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<ふるさと納税中間業務に関わる業務>

- ・4月に地域商社が設立され、返礼品の登録などを実施
- ・ポータルサイトを新しくする検討作業に関わり、新しく連携する小ポータルの窓口や新しいポータルサイトへの返礼品の商品アップやチェックを担当。

<観光事業関連・シティプロモーション推進業務>

- ・令和5年度から担当した「えびの観光大学」が観光商工課主管で継続して「えびの市観光大学」として再スタートし、7月31日（水）の「第2回」には、講師として「えびの市を取り巻く観光の情勢について」報告をした。
- ・11月30日（水）に社会教育課の「えびの市民大学」の7回目の講座講師を（株）えびのの事業として受注した。テーマは「えびのの観光資源（宝物）を再発見しよう」。
- ・4月から9月に開催された「北きりしまインバウンド推進会議に出席」して、情報収集と第2回会議で、日本のインバウンドの状況について講演した。
- ・地域商社のビジネスを見つける作業と並行して、えびのの観光戦略に役立つデータの収集も行った。特に最新の観光に関する情報を整理して、えびの市の置かれている状況を客観的に整理した。また、具体的に訪日外国人向けのアプリのデータ分析からわかった外国人観光客が急増した市町村上位100のうち上位の市町村の内容と急増した背景を分析した。市の観光の置かれている状況を観光資源のランク別数で比較して、観光資源の保有数が同じような市町村の観光施策がどうなのかも検討し、そして5月に発表された「消滅可能性自治体」から復活した市町村の成功事例を分析した。

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）tsujimoto@ebino-ebino.com

（電話番号）企画課 0984 - 35 - 3713

個人 080 - 6141 - 6577



ノウハウ

○営業経験を活かした企業へのアプローチ

○地域おこし協力隊で培った住民・行政との橋渡し

プロジェクト名	中央地区未来創出事業
年齢	34歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.8~
出身地	宮崎県都城市
転出元	宮崎県都城市
活動経験	日之影町地域おこし協力隊 (H31.2~R4.1)
前職	地域おこし協力隊 (日之影町)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

行政と住民の橋渡しや地域課題に精通していることなど、地域プロジェクトマネージャーに求められる要素を日之影町の地域おこし協力隊として3年間活動したなかで培うことができたことや、町の魅力やポテンシャルなどを最大限に引き出し盛り上げたいことから応募。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<旧役場跡地利活用事業>

町では移転した庁舎跡地の利活用事業を進めている。

地元住民を主体とした協議会と町の橋渡し役として整備内容などの意見調整実施予定



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) shinkou@town.hinokage.lg.jp

(電話番号) 0982-87-3801

(職場・その他(〇〇))

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

- UXデザイン
- IT
- DX

プロジェクト名	いぶすき元気プロジェクト
年齢	47歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.5~
出身地	兵庫県西宮市
転出元	神奈川県鎌倉市
前職	プロダクトマネージャー (プレティア・テクノロジーズ株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

エンターテインメント業界で培ってきた「関わる人々を笑顔にする」ためのUXデザインのスキルを、指宿市が求めていたスポーツタウンとしてのブランディングという舞台上で活かせると思ったため。

○ 活動内容・取組成果

<プロスポーツキャンプ激励式>
サンフレッチェ広島レジーナのキャンプ受入に際して地元のサッカーチームを招いての激励式を行った。将来のプロスポーツ界を担う子どもたちにとって憧れの選手とのふれあいの場となった。



<指宿市PRブース出展>
指宿市と連携協定を結ぶ鹿児島ユナイテッドFCのホームゲームにおいて、指宿の特産品を販売するPRブースを出展。特定の商品に関する問い合わせがあるなど指宿の認知が進んでいる。



<UXデザインワークショップ>
地域の活性化を進める上でプレイヤー不足が根本的な問題のひとつにあると感じたため、将来の指宿市を担う地元の高校生を中心にUXデザインを学べるワークショップを企画。定期的な活動とすべく準備を進めている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sport@city.ibusuki.jp

電話番号：0993-23-1014

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

https://www.instagram.com/sports_commission_ibusuki/





ノウハウ

- 官民連携
- プログラミング
- 起業創業支援

プロジェクト名	未来技術社会実装事業の推進
年齢	38歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R3.7.1～R6.6.30
出身地	神奈川県座間市
転出元	東京都文京区
活動経験	長島町地域おこし協力隊 (H27.10.1～ H30.9.30)
前職	長島未来企画合同会社 (ITサービス)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

長島町地域おこし協力隊員とし3年間活動し、また長島版総合戦略の改定に携わり、ICTを活用した長島町での取り組みを推進していくことに主体的に取り組むたいと考えていたため応募しました。

○ 活動内容・取組成果

基幹産業である水産業・農業のICT化・AR/VRをつかった移住定住を進めています。具体的には養殖の課題である赤潮対策や、生簀のなかから斃死魚を回収するロボットの実証事業、ドローンを活用したスマート農業などを計画・検討しています。



<重要プロジェクト>

- ・未来技術社会実装事業・協議会の発足し、関係機関と協議・現地確認・調査を実施。
- ・令和4年度スマートアイランド推進実証調査においてICT技術を活用した獅子島空き家対策プロジェクトを実施



<ブリッジ人材としての役割>

- ・熱意ある地方創生ベンチャー連合と連携したによるワーケーションの受け入れの実施民間企業との連携した事業を創出。未来技術を有する企業との協業の提案などを長島町地方創生統括監して実施しました。



【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) takashi.doi@gmail.com
(電話番号) 0996-86-1101

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://twitter.com/takashidoi>





ノウハウ

- FP（ファイナンシャル・プランナー）
- 移住プランナー
- 空き家相談士
- 実家片づけアドバイザー1級
- 職業紹介主任

プロジェクト名	肝付町移住定住促進プロジェクト
年齢	58歳（R6.4.1時点）
活動時期	R4.3～R7.1
出身地	奈良県奈良市
転出元	大阪府大阪市
前職	会計年度任用職員（北海道深川市）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職において、5年間、地方創生交付金を活用し、移住促進及び空き家対策といった課題に取り組んでおりました。今回、肝付町で地域プロジェクトマネージャー制度を活用し、移住促進や空き家対策の問題に取り組む人材を募集するのを知り、これまでの経験を生かせると思い、応募に至りました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<移住サポートセンターの運営>
ワンストップ窓口として「移住サポートセンター」を新設し、専用HPを作成し、移住相談を強化。移住相談件数R4：268件、R5：391件、R6(上半期)：269件
また、ワーケーション施設「海辺の音（ね）」を新設し、企業等の招致を開始。



<各種移住フェア参加・セミナー開催>
各種移住フェアへの参加。6月2日（東京）、7月20日（大阪）、8月3日（東京）、9月22日（東京）、10月19日（大阪）で開催された移住イベントに参加。
7月6日には肝付町単独セミナーを大阪で実施。R6年度移住イベントの参加回数は5回。



<空き家バンクの運営>
「移住希望者と空き家のマッチング事業」を開始し、専用HPや全国版雑誌等による情報発信を実施。

- 空き家の新規情報収集数
R4：60件、R5：54件、R6(上半期)：29件
- マッチング成約件数
R4：27件、R5：38件、R6(上半期)：11件



【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）ijuu-support@town.kimotsuki.lg.jp
（電話番号）0994-65-8426

きもつき移住サポートセンター（役場企画調整課内）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

（HP）<https://kimotsuki-town.jp/ijuu>





ノウハウ

- 小型船舶1級
- 食品衛生責任者
- 海上・陸上無線技士2級
- 特殊無線技士（レーダー）
- 潜水士

プロジェクト名	漁民町民win-winプロジェクト
年齢	66歳（R6.4.1時点）
活動時期	R5.1～R6.12
出身地	鹿児島県天城町
転出元	千葉県館山市
活動経験	天城町地域おこし協力隊（H30.4～R3.3）
前職	国立東京水産大学文部科学技官

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊として3年間従事し、R5年度に水産業振興拠点施設がオープンするので地域プロジェクトマネージャーとして採用された。

○ 活動内容・取組成果

<鮮度保持講習会>
地元漁師を対象に鮮度保持講習会を開催した。

<未利用魚の加工品開発>
サメバーガーを開発し、水産業拠点施設で販売している。

横浜八景島シーパラダイスで天城町展示スペースがあり、生物の輸送に奮闘中。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：mm571028@gmail.com

電話番号：0997-85-5382

携帯電話：090-4679-3166

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】



ノウハウ

○農業生産法人の会社経営に携わり、ふるさと納税のサイトで県及び作物別でそれぞれ人気ランキング1位を獲得

プロジェクト名	国頭村地産地消推進・農産物販売拡大事業
年齢	51歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R4.9~
出身地	大阪府吹田市
転出元	大阪府吹田市
前職	農業 株式会社 万陽商事

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

農家所得を向上させることで、農家ではなく農業という産業にして、若い世代が農業をするために国頭村に来てくれる環境を作りたいと思った。稼げる農業への取り組み。

⑦ 農業・林業

○ 活動内容・取組成果

<地産地消の推進>

地産地消推進協議会で朝市を開催



<農家販路開拓>

東京等で開催されているマルシェや飲食店などに特産品を送り、まずは国頭村の知ってもらう。その上でマーケットが望む者ができるかを検討する。
(ダイレクトアウト→マーケットインへ)



<やんばる3村連携によるブランディング及び販売強化>

やんばる3村の(国頭村、大宜味村、東村)との連携により、やんばるの農産物のブランディング化、世界自然遺産の「きせきの森」をアピール

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：okada@vill.kunigami.okinawa.jp

電話番号：0980-41-2621 (国頭村役場企画政策課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

ノウハウ



- インバウンドを含む観光プロモーション業務に精通
- デジ田応援団LdxP ★★として地域DXにおける活動実績
- 自ら企画・設計・開発まで行うシステム開発における豊富なノウハウ
- 地域特産品のブランディングと販路拡大に関する豊富な実績

プロジェクト名	観光DX推進プロジェクト
年齢	48歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.4～
出身地	東京都江東区
転出元	東京都品川区
前職	団体職員 (一般財団法人 沖縄ITイノベーション戦略センター)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

東京から沖縄へ移住後、20年以上沖縄観光関連業務に従事。コロナ禍で都内の民間企業でシステム開発を担当、沖縄県のコロナ関連システムの開発に関わった縁で、沖縄県内のIT推進系外郭団体の職員に。観光とデジタルの二つの分野での経験を活かした「観光DX」での貢献をさせていただくために沖縄本島周辺離島で最も観光振興の条件が不利とされる伊平屋村で地域PMになることを決意しました。

⑩ デジタル

○ 活動内容・取組成果

<観光データリンクエコシステム構築>
伊平屋村観光の出入口であるフェリーの乗船予約購入をデジタル化することで、データドリブンの観光DXを推進。フェリーによる来島を起点とし、観光やレンタカー予約などをシームレスに行えるデータリンクエコシステムの構築を域内事業者の補助金活用支援も行いながら取り組んでいます。



<伊平屋物産ブランディング及び販路拡大>
島外(村外)のホテルグループと提携し、インバウンド需要や朝食需要など地域物産のブランディングに資する取り組みと、販路開拓を同時に進めるプロジェクトを推進することで、知名度向上と観光誘客につながるデジタルマーケティングも行っています。



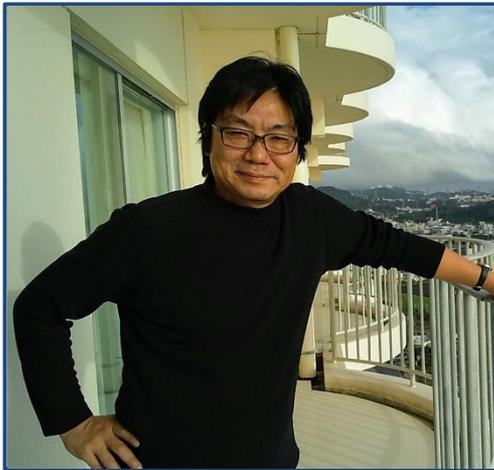
<MaaS基盤を活用した利便性と満足度の向上>
「乗換案内」で有名なジョルダン株式会社と提携し、同社保有のMaaS基盤を活用した二次交通におけるDX促進や企画周遊チケット造成などを実施。村内外の観光施設や交通事業者との連携強化を図ることで伊平屋村への渡航・旅行を含む「沖縄観光全体の利便性と満足度の向上」に取り組んでいます。
https://www.jordan.co.jp/company/data/press/2024/20240909_iheyavillage-tourism-dx.html

【メディア等の取材連絡先】

役場メールアドレス：t-kuba@vill.iheya.okinawa.jp

職場電話番号：0980-46-2177

直通メールアドレス：kuba@iheya.blue



ノウハウ

- 沖縄県内各自治体とのネットワーク
- 沖縄県企業誘致を通じた全国民間企業との幅広いネットワーク
- 事業マネジメント

プロジェクト名	伊平屋村DX推進計画策定事業
年齢	61歳 (R6.4.1時点)
活動時期	R6.7～
出身地	兵庫県西宮市
転出元	兵庫県尼崎市
前職	プロデューサー (不動産企画開発) 沖縄県企業誘致 (沖縄県庁東京事務所) プロジェクトマネージャー (ISCO)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

商社においてリゾート開発やホテル・マンションの企画開発・プロモーション業務に携わり、沖縄県と関わりを持つ機会を得ました。その後、沖縄県の産業振興に貢献したいとの思いから、沖縄県庁東京事務所で企業誘致を担当しました。さらに、沖縄県の外郭団体に転職し、県内各市町村のDX推進に従事する中で、伊平屋村の未来に大きな可能性を感じました。その実現のため、「伊平屋村DX推進計画策定事業」に取り組みたいと思い、伊平屋村へ移住して本事業を成し遂げる決意を固めました。

○ 活動内容・取組成果

<伊平屋村DX推進計画策定事業>

伊平屋村役場CDO補佐官として、伊平屋村のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、地域の活性化や住民の利便性向上を目指しています。全島民アンケート実施により伊平屋村の現状を分析し、ITやデジタル技術を活用した効率化、観光資源の発信強化、行政サービスのデジタル化などを支援する具体的な施策を策定しました。

この計画は今年度から令和13年度までの8年計画とし8年後の伊平屋村の未来像を示したいと思います。



<伊平屋村のDX推進体制の構築>

- 村長から現場の職員まで全庁が一体となって取り組むための体制を作ります。
- 体制の構築にあたっては、各課にDX推進担当を任命します。また、庁内職員のデジタルリテラシー向上のための育成を行うとともに、外部人材の登用や外部連携も進めていきます。
- 地域全体のDXに向けて、地域を支える関連団体/組織とも連携し、共創・協働できる仕組みを構築します。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：t-nakamura@vill.iheya.okinawa.jp
電話番号：0980-46-2005

【<https://www.vill.iheya.Okinawa.jp>】